©日本記者クラブ 2024


# 日本記者クラブ会報

公益社団法人　日本記者クラブ　〒100－0011　東京都千代田区内幸町2－2－1　日本プレスセンタービル　TEL. 03－3503－2722　https://www.jnpc.or.jp/





## 人気に幕

コンビニ越しに富士山を望む人気の撮影スポットに設置された黒い幕=5月21日、山梨県富士河口湖町　　撮影：渡邊　くるみ（時事通信社映像センター写真部）

## 久しぶりの「一丁目一番地一号」最終段階で「メディアとの対話」に

日本記者クラブの「一丁目一番地」は記者会見の開催だ。異論をはさむ余地はない。「一丁目一番地一号」があるとすれば、外国の要人の記者会見だろう。外国からの賓客を迎え、国内メディアが主催して記者会見を開く場所が日本にはない、つくるべきだというのが、55年前にこのクラブが誕生したいきさつだからだ。日本で初めての万国博覧会を前に、外国の要人が多く訪れることが予想されたころだ。

コロナ禍もあって、外国の首脳を迎える機会は減った。そんなところに、マレーシアのアンワル・イブラヒム首相の記者会見の話が舞い込んだ。マレーシア首脳としてはコロナ禍の前、２０１８年にマハティール首相を迎えて以来になる。アンワルさんは１９９８年、副首相兼蔵相として登壇し、アジア経済危機などについて語っている。マハティールさんの後継者と言われながら、その後、投獄されるなど辛酸をなめ、２０２２年にようやく首相になった。

時間調整には苦労した。決まっていた研究会をゲストにお願いしてずらしたら、その時間とも重なりそうになる。リクエストも多い。テーマを早く決めよう。同行メディアとも別に会見をしたい。演台を。テーブルは低いものを。そうやって5月24日、久しぶりに「一丁目一番地一号」に立つことができた。いや、最後には「記者会見」ではなく、「メディアとの対話」にしたいと言われたので、立つことができたのかどうか。呼び名を変えたところで何かが変わったのか、わからないけれど。（専務理事　江木慎吾）

# 会場参加率、4割に届かず
## 23年度、前年度に続き黒字決算

２０２３年度の事業について5月31日の社員総会に報告した。行事総数は２１０回。このうち、クラブの中核事業のプレス行事（記者会見・研究会や記者ゼミ）は１８９回と、前年度（１９６回）より減少した。

記者会見は48回、テーマを設けた研究会は１１４回あった。平均の参加者は約74人で昨年並みだったが、目標にしてきた80人には届かなかった。２００人を超える記者会見が４回を数えた一方で、１００人以上参加の会見・研究会は前年度の29回から17回に減少した。

最も多くの参加を得たのは、国際原子力機関（ＩＡＥＡ）のラファエル・マリアーノ・グロッシ事務局長の7月4日の記者会見で、会場、オンライン合わせて３７７人が参加した。東京電力福島第一原発の処理水についての検証結果をまとめた報告書を岸田文雄首相に手渡した直後だっただけに、内外メディアの注目を集めた。

「３・11」前に派遣している福島第一原発取材団は、２号機の溶融燃料（デブリ）の試験取り出しの課題について、２号機の同型の５号機の原子炉格納容器内で取材した。刑事施設を取材する企画もスタート、最初は府中刑務所に赴いた。

記者研修会は「取材の基本のキ」「性被害者取材」「オープンデータ活用術」と、実践的なプログラムを組んだ。「調査報道」「ＩＴ講座」については、継続して記者ゼミで取り上げている。



２０２３年度は前年度に続き、黒字決算となった。前年度に比べると受取会費が約２４０万円減少、借室維持費が約２２０万円増加と、収支悪化の影響がある一方で、貸室等の事業収益が約１１００万円増加した。この結果、経常収益は約３億４１７０万円、経常費用は約３億３７９０万円で正味財産は３８０万円ほど増加した。（16、17ページ参照）

### 26年前を思い出しながら

5月24日に登壇したマレーシア首相のアンワル・イブラヒムさん＝写真左の演台＝は、人懐こい笑顔の人だった。エレベーターで「クラブは再訪を26年待っていました」と言うと、「そうそう、一度来たのを覚えている」と笑顔がはじけた。前の予定が押して、控室は慌ただしくなったが、サインブックを前にした際にも「何年前だった？」と尋ね、「26年後に戻ることができてうれしい」と英語で書き込んだ。ホールへの階段を上がりながら「この階段も覚えている」。

この日、同時通訳をしてくれたのは26年前に逐次通訳をした池田薫さんだった。そのことを伝えたいと思いつつ、時間が押してかなわなかった。

目次


▼日本記者クラブ賞受賞のことば 3〜5
▼今月のクラブゲスト 6
▼会見リポート 6〜8
川島真 東京大学大学院教授／御厨貴 東京大学名誉教授、同先端科学技術研究センターフェロー／アンワル・イブラヒム マレーシア首相／脇山伸太郎 佐賀県玄海町長
▼記者ゼミ 8
▼ワーキングプレス 9〜10
米大学 広がるイスラエル抗議 毎日新聞社 中村聡也
34年ぶり歴史的な円安 テレビ東京 小野鉄太郎
▼新・列島報告 東京都 11
衆院東京15区補選の「選挙妨害」 東京新聞 井上真典
▼被災・防災・減災 最前線 12
高知県宿毛市で震度6弱 高知新聞社 大山哲也
▼リレーエッセー 13
永田和宏さん 歌人、細胞生物学者 共同通信社 岩橋裕介
▼書いた話書かなかった話 14〜15
市民から遠い権力 裁判官
その素顔、肉声を紙面に 井上裕之
▼2023年度決算書 16
▼マイBOOKマイPR 18
▼写真回廊 20
▼付録2023年度事業報告

日本記者クラブ賞

# 官邸取材「形骸化」に悔い 残された時間、一記者として

後藤　謙次（共同通信社客員論説委員）



1982年5月、共同通信の札幌支社から政治部に配属されると、いきなり政治部長に命ぜられた。

「明日から首相番をやってもらう」

首相番という言葉は知ってはいても実際に何をやるかは皆目見当がつかない。翌朝、先輩記者と一緒に「番車」に乗った。シルバーメタリックのニッサンプレジデント。もちろんこんな高級車に乗るのは初めてだ。行く先は世田谷区経堂にあった鈴木善幸首相邸。やがて首相が現れた。着任のあいさつをするため名刺を差し出すと、先輩記者にたしなめられた。

「総理大臣に名刺を出す必要はない」

それを見ていた鈴木首相がニコニコ笑いながら「まあ頑張りなさい」と声を掛けてくれた。これが生まれて初めて首相と交わしたやりとりだった。スマートフォンがあるわけではなく公衆電話で使う大量の10円玉は必携だった。その後、首相は鈴木氏から中曽根康弘氏に交代したが、当方はそのまま首相番を継続、担当は2年2カ月に及んだ。

## ■感情の起伏すべて記憶

今も各メディアは首相官邸に首相番記者を配置しているようだが、呼称は同じでも取材形態は全く違う。当時の首相番は、私邸を出た時から首相の脇にピタリと張り付いて質問を直接ぶつける。首相も人の子。時おり怒りを爆発させた。中曽根氏もそうだった。

「木魚みたいにポンポン聞くもんじゃない」

首相の感情の起伏を含めてすべての言動を記憶し、官邸クラブの上層部に報告するのが仕事だった。ただし、こうした首相番の取材について官房長官をはじめ首相サイドは強い不満を口にした。

「首相執務室のドアの前まで記者が付いてくる国はどこにもない」

その都度メディア側は一歩も譲ることなくこの要請をはねつけてきた。しかし、この取材スタイルは今や片りんすらない。時おり岸田文雄首相が官邸玄関ホールでマイクに向かってコメントするテレビニュースが流れる。その首相と距離を置いた場所に記者団が映る。そばの小さなテーブルには多くのICレコーダーが並ぶ。

## ■気が付けば「蟻の一穴」

こうした首相番記者の取材形態が劇的に変わったのは小泉純一郎首相時代だった。旧首相官邸が役割を終え、今の首相官邸が始動してからだ。官邸側は「危機管理」を理由に「立ち入り禁止エリア」の大幅拡大を通告してきた。取材できるのは玄関周辺に限定された。もちろんメディア側がすんなり受け入れたわけではなかった。そこで首相側が〝妥協案〟を提示してきた。

「午前と午後小泉首相がぶら下がりインタビューに応じる」

メディア側もこれでいったんは矛を収めた。しかし、気が付けば「蟻の一穴」。発信力では天才的な小泉氏だから可能な方法だったが、首相への直接取材は首相が交代するたびに形骸化した。当時の福田康夫官房長官は取材制限についてこう述べていた。

「この官邸は百年続くのでゆっくり相談しながらやりましょう」

しかし、その後、官邸取材のあり方について双方の協議が行われたとは聞いていない。今振り返ってもこの「首相番方式」は「権力の監視」という点でも譲れない一線だった。現状を変えることは容易ではないが、1㍉でも取材エリアを広げる意味は小さくはない。残された時間を一記者として微力を尽くしたい。

**ごとう・けんじ**　1949年東京生まれ　73年共同通信社入社　平河クラブ　官邸クラブキャップ　政治部長などを歴任　論説副委員長兼編集委員　編集局長を経て　2007年退社　退社後はTBSテレビ「NEWS23」のキャスター　テレビ朝日「報道ステーション」のコメンテーターなど　白鷗大学名誉教授も務める　新聞・雑誌の連載コラムを抱え　ラジオでも長期番組をもつ　著書に『竹下政権・五七六日』『10代に語る平成史』『ドキュメント平成政治史』全5巻など

日本記者クラブ賞特別賞

# 北海道放送ヤジ排除取材班
# 小さな声 封じられぬよう

山﨑 裕侍（北海道放送コンテンツ制作センター報道部デスク）



一つのテーマを4年も追いかけて、ずいぶん遠くに来たものだと思う。がむしゃらに取材しながらも、荒波に押されて進む小舟のように、次々と起きる現実に突き動かされてきた。時には私たちの意図しない方向に。

## ■映像を集め、当事者を探し

始まりは「後追い」だった。札幌でヤジ排除が起きた2日後、朝日新聞が社会面に独自記事を書いた。一見すると小さな出来事のように思えるかもしれないが、放っておけば権力は暴走し、より大きな自由が奪われるのではないか。当時、統括編集長だった私は長沢佑記者とともに事実上二人三脚で取材を進めた。

我が社のカメラクルーが撮影した排除の映像はなかったが、幸いにも契約する通信員がプライベートで撮影した動画があった。さらに一般市民が撮った映像を集めたり、当事者を探したり、専門家に検証したり、元北海道警察幹部にインタビューしたり、当たり前の取材を続けてきたつもりが、いつのまにかヤジ排除を伝えるメディアの先頭に立ち、最後までこだわったのは私たちだけになった。

現実は思うようには動かなかった。排除された市民が警察官を特別公務員職権乱用などで刑事告訴したが検察は不起訴、北海道警察も「適法だった」と議会で報告した。全国共通の問題だと思い全国放送を企画したが、かなわなかった。それでも2020年2月には30分のドキュメンタリー番組をつくり、4月には追加取材を加えた1時間番組を放送した。番組は多くの賞を受賞したが、自分の力のなさを感じもした。警察は反省もしていないし、自分たちの報道は多くの人に伝えられていないのではないか。書籍化の話をいただいたが、まだ何もなしえていないという思いがあり、お断りした。

## ■全面勝訴から大きな動きが

現実が大きく動いたのは22年3月。札幌地裁は、警察の行為は違法だとして原告ほぼ全面勝訴の判決を出した。証拠採用した動画をもとに、警察の主張の矛盾を次々と崩し、民主主義や憲法の観点からこの問題を裁いた判決に胸のすく思いがした。再度書籍化のお話をいただき執筆にとりかかっていたとき、安倍元首相銃撃事件が起きた。地裁判決の影響を指摘する匿名の書き込みや一部の識者・メディアが現れ、私たちは検証に追われた。23年4月に札幌でTBSドキュメンタリー映画祭が開催されることが決まり、「劇場版 ヤジと民主主義」（78分）を作る機会に恵まれた。上映初日、今度は和歌山で岸田首相が襲撃される事件が起きた。要人警護を名目に、政権を批判する声を封殺しようという動きが強まるのではないか。今こそこの問題を多くの人に届けたい。そんな思いを強くしたときに、単独映画化のチャンスをいただいた。

映画は民主主義や表現の自由を問うものではあるが、観た人は多様な感じ方をしていた。会社の不正を告発しようと決意する年配の男性、これからガザ侵攻の抗議デモに参加するという若者、「私も声を上げていいんですね」と語った中学生もいた。特に泣きながら思いを語る女性の多さに驚く。

ヤジは自らの存在証明の象徴だと今にして思う。排除されていい人など誰もいない。今日も誰かが声を上げている。誰かの声が封じられている。私たちの報道活動が、そんな人たちのわずかでも後押しになれたら、こんな幸せなことはない。

**北海道放送ヤジ排除取材班**　2019年の参議院選挙期間中に札幌市で自民党候補の応援演説をしていた安倍晋三首相（当時）にヤジを飛ばした市民が警察に排除された問題を4年継続して報道。23年「劇場拡大版」として映画化。これまで報じたニュースや特集は計123回（23年9月現在）。『ヤジと民主主義～小さな自由が排除された先に～』（20年4月放送）は第63回日本ジャーナリスト会議JCJ賞、第57回ギャラクシー賞報道活動部門優秀賞、第40回地方の時代映像祭優秀賞、20年日本民間放送連盟賞ラジオ報道優秀賞などを受賞した。

日本記者クラブ賞特別賞

# テレビ静岡「イーちゃんの白い杖」取材班
# 何かを変えてくれる家族

橋本　真理子（テレビ静岡報道制作局長）

放送記者になって30年。ニュース取材・番組制作に携わる者にとって、日本記者クラブ賞は憧れの賞です。静岡に住む6人家族を25年追い続ける。効率が求められるこの世の中で、地道な取材活動が認められたことは、私たち取材班だけでなく、記者を目指す、続ける仲間へのエールになると心より感謝しております。





左：ご家族と番組スタッフ
右から2人目がイーちゃん（2018年11月／静岡市／筆者提供）
右：贈賞式でスピーチする橋本さん

## ■離れず見届けたかった

私が10歳の時、ステージ4の口腔がんを患った父は手術の末、46歳で言語障がいとなりました。話すことも、食べることも困難になった父は家にこもるようになり「死にたい」と連呼するように。障がい者になったら人生終わるのか、隠れるようにして生きなければならないのか。そうであるなら変えたい、と私は養護学校（現在の特別支援学校）の教員免許を取得した上でマスコミに入りました。

記者になって4年、私は奇跡の出会いを果たします。全盲の姉・唯織（いおり）と重度障がいの弟・息吹（いぶき）。イーちゃん家族の強さと明るさは、〝障がい〟の概念を変えてくれるかもしれない、障がい者にモザイクをかける日が終わるかもしれないと直感しました。入退院を繰り返し、手術を乗り越える息吹君と父が重なったのも事実です。取材と看病に疲れ果てた時、イーちゃん家族にどれだけ励まされたか。

１９９９年、視覚障がいの世界・盲学校教育を伝える番組『イーちゃんの白い杖 １００年目の盲学校』を制作。通常は番組が終われば、いったん取材も終わりますが、唯織と息吹、この先どう生きていくのか、生きやすい社会になるのか、離れず見届けたかった理由もここにあります。日々発生する事件事故・災害・選挙―ニュース取材が私の本業ですから、イーちゃん家族の取材は休みの日。番組制作費がないため、ニュースの企画として放送することで追い続けました。

いじめ、夢の挫折、恩師との別れ、突然の解雇。いくつもの壁にぶつかり、笑顔が消えたイーちゃん。その姿を撮影するのは私も苦しく、何度やめようと思ったか分かりません。言い合いになったこともありますが、盲学校でもいじめはある、健常者も障がい者も悩みは同じなんだと伝える必要がある、イーちゃんはいつの日か必ず笑顔を取り戻すと信じ、見守る道を選択しました。取材テープ・ディスクは７００本を超えます。

## ■ローカル局、だからこそ

しかし、２０１６年、神奈川県で重度障がい者殺傷事件が発生。犯人は「重い障がいを持った人は生きている意味がない」と主張し、これに同調するようなコメントがＳＮＳで飛び交いました。

イーちゃん家族を取材し続け、番組を制作していながら何も伝わっていない、愕然（がくぜん）とするとともにローカル局が全国発信する限界を感じました。障がい者が主人公の番組を「見たい」と思ってもらうためには、エンターテインメント性が必要だと考えを改め、私自身がイーちゃん家族からもらった元気と勇気を素直に伝えようと決めました。

33歳になったイーちゃんは言います。「悩んでいる姿を撮影されるのは嫌でした。橋本さんのことは好きだけど、カメラを回す橋本さんは嫌いで…でも、私を見捨てず見守ってくれたこと、いまは感謝しています」と。その笑顔は自信に満ちていました。

唯織と息吹、障がいを持って生まれたからこそ家族をひとつにします。障がいがあろうがなかろうが、誰にも生まれてきた意味があると教えてくれました。イーちゃん家族にも、私たち取材班にも、成長するためには25年が必要でした。

**テレビ静岡「イーちゃんの白い杖」取材班**　静岡県焼津市在住の生まれつき全盲の少女・小長谷唯織さん（イーちゃん）が、重度障がいの弟・息吹さんと家族に支えられて、いじめ、夢の挫折などの壁を乗り越え自立する姿に25年間寄り添った。２０２３年日本民間放送連盟賞テレビ・グランプリ、番組部門「テレビエンターテインメント」最優秀賞、特別表彰部門「放送と公共性」最優秀賞受賞。ＮＹフェスティバル２０２４金賞受賞。

## 「中国で何が起きているのか」⑬

# 川島　真

東京大学大学院教授

5月16日

### 習政権「強靭さ失われた」

中国の習近平政権が米国との競争の中で、どのような戦略的な外交を展開しているか詳細に分析し、習1強体制下の内政との関係を論じた。

２０４９年（建国１００年）までに「中華民族の偉大な復興」を目指す習政権の基本政策は「米国に追い付き追い越す」「台湾統一」と分析。米中競争の中で台湾は①地政学的軍事安全保障②先端技術③民主主義の価値観―の3点で重要と述べた。



ロシアは「最も重要なパートナー国であり、ロシアの安定は極めて重要だ」とし、万一、ロシアで革命が起きて北大西洋条約機構（ＮＡＴＯ）メンバーになったり、ロシア全体が混乱に陥ったりすることは中国にとって「最悪の事態」とした。

巨大経済プロジェクト「一帯一路」について、有事で中国の東側が使えなくなった際、中央アジアや東南アジア経由、シーレーンでエネルギーや物資の供給を確保するために重要だと解読した。

５月の習氏のフランスとセルビア、ハンガリー歴訪は対米けん制と欧州での影響力拡大が狙いとし「フランスは米国と違う独自外交を進めそう」「ハンガリーはＮＡＴＯの中で最も中国寄り」「セルビア訪問はＮＡＴＯ軍の在ユーゴスラビア中国大使館誤爆25年に合わせた」と説明した。

日中関係については①日中韓サミットで、ある程度改善を図るが、そこで止まる②東・南シナ海や台湾を巡る中国の政策は変わらない③日本人の対中感情は悪く、岸田政権は改善に動きにくい④中国は日台関係の強化に強い警戒感を持つ―とし、当面、改善は難しいとの見通しを示した。

内政について、習氏は1強体制を進めてきたが、中央・国家の政策が地方・社会に浸透していかず、政権の強靱さ（レジリエンス）は胡錦濤前政権に比べて失われたと分析。厳しい言論・思想統制の中で、国民は不満を募らせ、日本など海外への移住が増えている現状を紹介した。

共同通信社論説委員　森　保裕

## 今月のゲストの皆さん

ゲスト全員の会見リポートは右のQRコードを開きウェブサイトで読めます。出席欄の「会」は会場、「オ」はオンラインの参加人数です。

### 加藤 秀樹さん　構想日本代表



「自民党の裏金事件の本質は政党のガバナンスの欠如だ」「会社や公益法人には、詳細なガバナンスルールがある。政党にガバナンスルールがないのは、先進国に例を見ない後進状況」「根本解決には『政党法』の制定などによる、ガバナンスの確立が不可欠だ」

■5・13／出席：会17人、オ46人／「〈政治とカネ〉を問う」⑧／司会：川戸惠子委員

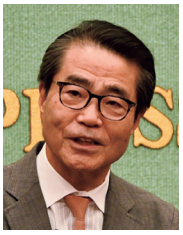
### 渡部 恒雄さん　笹川平和財団上席フェロー



トランプ氏が勝利したら「自身の刑事訴追を無効化する。ディール重視でウクライナ戦争の停戦を自分の業績にしようとする」。「日本は日米同盟を基軸とする『プランA』から、責任を分担し国際秩序を支える『プランAプラス』戦略を模索すべきだ」

■5・15／出席：会32人、オ59人／「2024 米大統領選」⑥／司会：大内佐紀委員

### 若狭 勝さん　弁護士



元東京地検特捜部副部長。「政治資金規正法19条３の規定を適用すれば、今までブラックボックスで全く分からなかったことが相当明らかになる」「政策活動費をオープンにしてしまうと、自分たちの利権が失われてしまうので口に出して言わないのが実情だ」

■5・24／出席：会25人、オ38人／「〈政治とカネ〉を問う」⑩／司会：川上高志委員

＊下記のゲストの会見リポートは６～８ページに掲載しています

### 川島 真さん　東京大学大学院教授

■5・16／出席：会24人、オ57人／「中国で何が起きているのか」⑬／司会：高橋哲史委員

### 御厨 貴さん　東京大学名誉教授 同先端科学技術研究センター フェロー

■5・20／出席：会42人、オ59人／「〈政治とカネ〉を問う」⑨／司会：佐藤千矢子委員

### Anwar bin Ibrahimさん　マレーシア首相

■5・24／出席：会62人、オ30人／司会：前田浩智理事長／通訳：池田薫さん、富永恵子さん

### 脇山 伸太郎さん　佐賀県玄海町長（リモート登壇）

■5・27／出席：オ94人／司会：行方史郎委員

## 「〈政治とカネ〉を問う」⑨

## 御厨　貴

東京大学名誉教授、同先端科学技術研究センターフェロー

5月20日

### 政党への深い絶望感を懸念

政治資金規正法の改正に向けた法案が出そろうタイミングでの会見となった。「歴史を大きくつかむ」をテーマに戦後史80年を中心に政党、派閥、カネを歴史的な視点から解説。戦後新しくできた政党の総裁を公選で決めるところから民主化がスタートし自分たちのボスを総裁にしようと派閥が誕生したと振り返った。

そして公選法が適用されない総裁選がカネにまみれていくさまを具体的に描写した。



2派からカネをもらう「ニッカ」、3派からの「サントリー」といった隠語に触れ、かつて自民党の党大会で総裁を選ぶ投票の前に各派閥が「うちの親分をよろしく」と現ナマを議員の背広のポケットに突っ込んでいく様子が当時のニュース映画に映っていたエピソードを紹介。

これとは別に田中角栄氏がカネを渡すマナーとして、もらう側に圧がかからない指南をしたという話からはカネを効果的に使う田中派の伝統が垣間見えた。

また安倍派などの「裏金」の背景について派閥や議員がアドホックにではなく予定調和的にカネが入ってくるシステムが欲しくなったのだと解説した。

こうした歴史も踏まえ、今の政治状況は岸田政権への支持が低迷する一方で、野党が次に政権をとれる状況ではないと分析。政党に対する国民の絶望感は深く「ニヒルな選択を迫られる時代になった」と危機感を露わにした。ただ、政治を純粋に憂える若い層にかすかな希望を見いだし、SNSなども活用して政治を変えていくことに期待しエールを送った。

一貫して今の政治にリクルート事件後のようなエネルギーや情熱が乏しいことへの失望感をにじませた。岸田派や安倍派が相次いで解散したあと自民党内で動きが出ると思ったらそこで止まってしまったありさまに対して「派閥だけでなく自民党そのものの解体時期が来ているのかな」という発言が印象的だった。

NHK解説委員室　特別主幹　山下　毅

## アンワル・イブラヒム

マレーシア首相

5月24日

### 苦難から復活遂げた楽観論



長年の政治闘争の末、1年半前についに首相の座に上り詰めた。過去には、マハティール政権下での副首相からの失脚をはじめ、服役も経験している。紆余曲折を経て76歳となった今、政治家としての理念を聞いてみた。

「獄中で本を読み、文化や伝統、経済学などさまざまなことを理解した。その間で成長し、年齢を重ねた。自由と不自由とは何かを大抵の人より分かっており、民主主義の価値への感謝がある」と半生を振り返った。「政治指導者らが権力の座にあれば行き過ぎがある」との弁は、名指しせずとも長期政権を築いた宿敵マハティール氏への批判だろう。

多民族多宗教国家のマレーシアの目指すべき道については「イスラム教徒が60％だが、少数派に対し寛容と尊重を示す非常に穏健なイスラム国家にしていきたい」とし、人種差別主義や強権独裁主義ではなく「公正と人道主義的発想を育てる必要がある」と語った。

こうした理念の先に見据えるのが経済発展に違いない。マレーシアは、日本や中国などとの等距離外交を基本とし、中立を守る。

台湾周辺や、南シナ海での軍事的威圧を強める中国について「過度に攻撃的、好戦的になる兆候はない」と不安視せず、「どの国に対しても、貿易や経済活動への投資をやめさせるような取り組みがあってはならない」と強調した。

日本のマレーシアへ向ける視線についても「マレーシアはいまや30年も40年も前の姿ではない」と訴え、人工知能（AI）を含むデジタル分野などへの投資を呼び掛けた。

ただ、安全保障がなければ経済発展もない。苦難からの復活を遂げたからか「楽観主義者」を自任し、軍事的緊張をそこまで意識しなくてもよいのかという疑問も残った。

産経新聞社インド太平洋特派員　岩田　智雄

## 脇山　伸太郎
佐賀県玄海町長
5月27日

### 「最終処分場には向かない」

原発の立地自治体として初めて、高レベル放射性廃棄物（核のごみ）の最終処分場選定に向けたプロセスの1段階目となる「文献調査」を受諾した佐賀県玄海町の脇山伸太郎町長が、5月27日、オンラインで会見に応じた。全国的な議論に一石を投じる意義を強調しつつ、「玄海町に最終処分場は向かない」と自らの〝信念〟を語り、2段階目の「概要調査」に進むことには否定的な考えを示した。




脇山氏は「本当は文献調査に手を挙げたくなかった」と本音を吐露。「これは今まであまり、記者会見で言っていないが」と前置きした上で、「議会とあつれきができると、まちづくりに支障が出る。政治信念を曲げてまでと言われるかもしれないが、決断した」と、町議会との摩擦が町政運営に与える影響を懸念し、従来の自らの考え方を翻す格好で文献調査受け入れを決めたことを明らかにした。

2段階目となる概要調査の際に、今回と同様に調査受け入れを求める請願を議会が議決した場合について問われた脇山氏は、「2期目が終わるころは、まちづくりが進んでいる。2年後は信念を曲げるということにはならないのではないか」と言及。「玄海町は炭鉱があり、長崎側には火山帯がある。玄海町は最終処分場を造るのには向かないと思う」と、町内への設置に否定的な〝信念〟を繰り返し強調した。

脇山氏の率直な物言いから浮き彫りになったのは、最終処分場を巡る議論に、首長の任期の残り具合や、改選を見据えたタイミングか否かという個別事情が、少なからず影響するということだ。それは、首長の判断が必ずしも科学的な根拠や客観的事実に基づかないリスクをはらむと言うことでもある。脇山氏は市町村長らの判断が必要となる現行の選定プロセスについて、「なかなか厳しい。違うやり方もあるのでは」とも語った。再考の余地はないか。国は前面に立って考える必要がある。

佐賀新聞社東京支社　大橋　諒

## 土曜記者ゼミ

### IT編①「NICAR報告」

**5・11／講師：小宮山亮磨 朝日新聞社デジタル企画報道部、中山美里 朝日新聞社デジタル企画報道部／出席：会場7人、ウェブ27人**

#### AI記者も積極的に活用を

2人は3月に米国で開催されたデータジャーナリズムの勉強会「NICAR」に参加。今年新たにAIのカテゴリーが追加され、全209講座中、AI関連は15講座あったという。中山さんは「記者もAIを積極的に活用して議論を続けながら、模索し続けないといけないと改めて感じた」と話した。小宮山さんは、チャットGPTを使った「スクローリーテリング」コンテンツの作成方法を紹介した。（事務局）

### 調査報道①「江東区長選での公選法違反」初報の背景

**5・18／井上真典 東京新聞社会部／出席：会場6人、ウェブ18人**

#### 背後に柿沢氏 疑問持ち取材

2023年7月、江東区長選で初当選した木村弥生氏が選挙期間中に、公選法に抵触するユーチューブで投票を呼び掛ける有料インターネット広告を出していたことを独自に報道した。東京地検特捜部が捜査に乗り出し、区長は辞任、起訴された。捜査の結果、支援していた柿沢未途前法務副大臣が、公選法違反の買収などの罪で有罪判決が確定するなど、一連の事件のきっかけを作った。

23区内の行政担当の井上さんは、19年のIR汚職事件や22年の江東区元議長の贈収賄事件の取材に携わり、「江東区に縁があり、色々な所から情報が入ってきた」。柿沢氏の買収など調査のハードルが高い複数の選挙違反情報の中から、有料広告の取材を始めた。自民分裂選挙のため告発状が出される可能性や、柿沢氏が関与した疑いを持ち「背後に柿沢さんがいることを当局が考えたならば、捜査をするのでは」と考えたという。

取材で違法性に確信を持ったが、実は初報では実際の広告が入手できず、記事化して話題になった際にSNSで動画を持つ人にたどり着いた。

井上さんは他紙の過去記事で、フェイスブックでは過去の有料広告を検索できることを知ったが、今回のユーチューブでは有料広告の検索ができなかった。「どこで何を調べればいいのか分からなかった」と振り返り、「検索方法があれば共有や記事に残してもらえたら、次に同じ問題が起きたときに前進するきっかけになると思う」と話した。（事務局）

## 米大学 広がるイスラエル抗議

# 「虐殺に加担」若者反発
## バイデン氏再選に向かい風

中村　聡也（毎日新聞社ニューヨーク支局）

米国各地の大学で4月中旬以降、パレスチナ自治区ガザ地区への攻撃を続けるイスラエルに対する抗議デモが相次いだ。過激化した一部のデモ隊を警察が排除する動きもあり、これまでに3000人超が逮捕された。デモではイスラエルを支援するバイデン大統領にも批判の矛先が向いており、再選を目指す11月の大統領選への影響が出かねない事態になっている。

「ジェノサイド（大量虐殺）戦争」「パレスチナに自由を！」

4月下旬、東部ニューヨーク州マンハッタン地区のニューヨーク市立大には数百人が集まっていた。デモ隊は敷地内にテントを張り、パレスチナの旗を掲げた。「イスラエルによる民間人虐殺にバイデン政権は加担している。容認できない」。同大に通うヨルダン系のファティマさん（22）はこう述べた。取材中には一時、デモ隊と警備員がもみ合いとなって騒然とする場面もあった。

さまざまな大学に波及した今回のデモはマンハッタン地区のコロンビア大が発端だ。各地の学生らはパレスチナの解放と連帯を訴えると同時に、大学側にイスラエル関連企業からの投資の取りやめなどを要求。一部は建物を占拠するなど過激化し、大学の要請を受けて警察に強制排除された。AP通信は5月20日、これまでに61校で少なくとも3025人が逮捕されたと報じた。

### 投資撤退など大学に要求

なぜ、デモが活発化したのか。背景にあるのは、大学への反発だ。米国の大学は寄付金を原資とした基金の運用が経営の柱の一つになっている。学生らは大学がガザ地区への攻撃で利益を上げる企業に投資し、それが結果的に民間人の被害を拡大させていると反発している。また、意識の変化もあるようだ。米国ではユダヤ系は人口の約2％だが、政界などで影響力が強く、イスラエル批判はタブー視されてきた。だが、若者らは正しくないことに「NO」と声を上げる率直さを持ち合わせている。

### 多様な人種　取材拒否も多数

一方、取材をすると、デモにはアラブ系だけでなく、さまざまな人種が参加していることも分かった。ニューヨーク大に通うプエルトリコ系のミランダさん（23）もその一人だ。「米国の支援を受けたイスラエルの行為は帝国主義によるパレスチナの植民地化だ」と話す。だが、身元が特定されるのを嫌がったのか、取材は拒否する人の方が多かった。写真を撮ると「消せ！」と詰め寄られたりもした。



警備員らともみ合うニューヨーク市立大のデモ隊（4月25日/ニューヨーク/筆者撮影/毎日新聞社提供）

米国では1960年代、ベトナムに軍事介入する政権に抗議する反戦運動が学生の間で始まり、公民権運動とも結びついて大きなうねりになった。今回のデモの波は、ベトナム反戦運動が時の政権与党にとって大統領選の敗北につながった「1968年の悪夢」の再来との声もある。米紙ニューヨーク・タイムズとシエナ大の昨年12月の調査によると、ガザ情勢を巡るバイデン氏の対応を「支持しない」と答えた人は全体の57％だった。特に18～29歳に限るとその割合は72％に達した。

大統領選では「バイデン氏に投票したくない」。今回のデモで多くの人がこう言った。一方、返り咲きを狙うトランプ前大統領にも「投票したくない」。若者らはジレンマを抱えながらデモに繰り出していた。

5月中旬時点でイスラエル軍との戦闘によるパレスチナ側の死者は3万5000人を超えた。約4割が子どもだった。米国で大学のデモは収まりつつある。しかし、ガザ地区で民間人の犠牲者が増える限り、若者の怒りは収まらないと感じている。

なかむら・としや▼商社　日系通信社のフィリピン支局とインド支局勤務を経験して　2018年6月　毎日新聞社入社　秋田支局　外信部を経て　21年10月からサンパウロ支局　23年10月より現職

# 〝介入〟祝日の乱高下 応変 生の声を求めて

## 34年ぶり歴史的な円安

小野　鉄太郎（テレビ東京報道局経済キャップ）

「160円…!?」

4月29日午前10時36分、祝日に早い昼食をとろうと、家族と入った回転寿司で見入ったのは、寿司の値段ではなくドル円相場だった。

もともとこの日の為替は158円台と〝危険水域〟に入っていた。それが店に入ってからタッチパネルで注文するまでの3分間で2円も進んだ。下がったのだから為替介入ではないが、間違いなく政府・日銀が言うところの「過度な変動」だ。残念ながら祝日は終了。最初に頼んだ初鰹とつぶ貝が専用レーンに到着したのを詰め込んで財務省に向かった。

### 拍車「二つのサプライズ」

日米の金利差を背景に円安が進んでいた為替相場は、26日の日銀の政策決定会合で起きた二つの〝サプライズ〟で大きく動いていた。一つ目は前日に出た「日銀、国債購入縮小の方法検討」という報道に関するものだ。量的引き締めにつながる情報で円高方向に動く材料となる。すでに相場はその情報を織り込んでいたところ、正午近くに発表された日銀の金融政策では国債購入に関する記述は全くなかった。これが〝逆サプライズ〟となり反動で円安が進んだ。さらにダメ押しとなったのは、午後3時半から開かれた植田和男総裁の会見での発言だ。「(円安の)基調的な物価上昇率への影響は無視できる範囲だったと？」との質問に、あっさりと「はい」と答えた。これが「円安容認」ととられ円安が進行、日本時間の翌朝には158円台をあっさりと越えていた。



記者に囲まれる神田真人財務官（4月29日/財務省/テレビ東京提供）

そして29日。祝日で静まり返った財務省の中で神田真人財務官の部屋からは明かりが漏れていた。状況が一変したのは午後1時過ぎ、一気に円高に振れて154円台まで進んだ。「介入か？」。10分もしないうちに記者が殺到。テレビカメラも全社そろい、財務官室を取り囲んだ。

神田財務官がようやく取材に応じたのは午後6時過ぎ。答えは「私から為替介入の有無について申し上げることはございません」。正直がっくりしたが、ノーコメントもコメント。当事者の発言は必須だと自分に言い聞かせた。

### 瞬時 チャットで情報交換

財務省担当としては神田財務官のマークが最優先だが、テレビ報道としては同時にやらねばいけないことがある。この円安をいかにして映像で伝えるかだ。祝日で企業の動きがない中でも何とか現場を探して生の声を撮らなければいけない。悩ましいところだが、テレビ報道は完全なチーム作業なので、ここは番組と一緒に考えていくことになる。今回も160円を付けた段階で即座に夜のニュース番組「WBS」でチームが組まれ「円安に苦しむ人」を捕まえようと海外に行く旅行客や、両替業者などの取材が組まれた。

今回のような「動いているニュース」では、状況の変化に応じて取材内容も変えていくのが重要だ。そのため最近はグループチャットで記者、番組ディレクター、デスクなどがリアルタイムで情報交換しながら取材を進めている。今回も取材中に為替介入と見られる動きがあったため、即座に「円安に苦しむ人」から「乱高下に左右される人」という切り口に方向修正。結果、円高に振れたと聞いて「え？　いま両替します」と慌てて両替に向かう親子や、両替業者が交換レートを158円98銭から154円44銭に変更する様子を撮影することができた。

為替介入と見られる動きは5月2日にも見られた。神田財務官は為替介入の回数に限界はないと市場をけん制している。メディアと当局の緊張はしばらく続きそうだ。

おの・てつたろう▼1999年入社　これまで与党キャップ　WBSディレクター　北京支局長などを歴任　2019年から現職

新・列島報告82　東京都
衆院東京15区補選の「選挙妨害」

# 怒声、追跡、異形の選挙
## 表現の自由と区別が必要

井上　真典
（東京新聞社会部）

「どのツラ下げて立候補してるんですか。質問に答えてください」

衆院東京15区補選の告示日だった4月16日、JR亀戸駅前のロータリーで、乙武洋匡氏陣営の遊説現場に記者もいた。警視庁に公職選挙法違反（自由妨害）の疑いで選挙後に逮捕された「つばさの党」の根本良輔候補者らが街宣車で現れ、拡声器を使って怒鳴っていた。一連の事件の始まりだった。

乙武氏陣営が相手にしていなかったためか、根本氏らの行動はエスカレート。近くの公衆電話の上から訴え始めた。警察官も近くには大勢いたが、やめさせることはなかった。応援に駆けつけた小池百合子東京都知事の演説が始まると、つばさの党の街宣車からクラクションも鳴り始め、両手で耳をふさぐ乙武陣営スタッフもおり、辺りは騒然となった。


衆院東京15区補選の告示日に、乙武氏陣営の演説中に公衆電話ボックスの上から声を上げる根本良輔氏（4月16日/JR亀戸駅前、江東区/東京新聞提供）

### ■ベタ記事のみ　党は匿名に

選挙期間中には通常、交流サイト（SNS）を通じて、遊説場所を告知する各陣営も、「つばさの党」からの妨害を恐れて、一部陣営は告知をやめ、ライブ配信する同党の動画を見ながら、同党を避けながら演説を続けていた。ある江東区議は「これまでの選挙は、各党の区議同士で陣営の遊説場所を事前に連絡し合い、バッティングしないようにしていた」とトラブルの防止に努め、「紳士協定」に基づいていたところがあった。

15区補選の異様さを選挙期間中に報道すべきだったのか。根本氏らもあくまで候補者だ。選挙期間中に、特定の候補者のみの報道は、公平性を欠くのではないかとの考えもあり、結局、選挙期間中は、亀戸駅前での一件で、警視庁が警告を出した事実のみ、つばさの党を匿名にしてベタ記事で報じたのみだった。

「カーチェイス」と称して候補者の選挙カーを追いかけ回す動画もユーチューブに投稿された。警視庁は根本氏らの足をその場で止めさせることもできたはずだが、「選挙妨害」と抗議を受けかねず、控えていた。

一連の警察の対応から、複数の陣営からは「警察は何もしてくれなかった」との不満が残り、政党の代表者らによる相次ぐ公選法の改正発言にまで至った。ただ、現行法で何ができるのか議論をしていくことがまずは大切で、札幌でのヤジ排除問題にみられるように市民によるヤジ、つまり表現の自由への権力の介入と明確に区別する必要がある。

### ■「争いは見ちゃうもの」

つばさの党の目的は何だったのか。候補者が参加した4月16日のネット討論会で、活動表現について問われた根本氏は「普通に街宣しても有権者は聞いてくれない。争いとかは見ちゃうもの。ユーチューブでビュー（視聴数）が伸びる。言論の自由の範囲でやらせてもらっている」と語っていた。

選挙直後に、争う場面の動画を投稿することで視聴数を稼ぐことが目的ではないかと問うと、根本氏は「質問に答えてくれれば、騒ぐことはしない。争うことが目的ではない」と反論。同党の黒川敦彦代表は、ユーチューブの広告収入は、「この選挙期間中は、100万（円）はいかない。50万円くらいいきそう。おかげさまで」と話す場面もあった。

警視庁捜査2課は2006年以来の特別捜査本部を設置し、異例の対応を取った。今後、選挙を利用しながら陰謀論を広めたり、収益を稼ぐような行為や、つばさの党と同様の行為をする団体が現れた時に、警察はどのような対処をし、マスコミはどのように報道すべきなのか。各関係機関の対応が注目されている。

いのうえ・まさのり▼2010年入社
行政担当　埼玉県警　警視庁クラブなどを経て　23年3月から現職

被災 防災 減災

最前線㉘

高知県宿毛市で震度6弱

# 大揺れ いきなり局所で

## 「忘れたころに」を再確認

大山　哲也
（高知新聞社報道部長）

その瞬間。「ついに来た」と住民は凍り付いたという。4月17日午後11時14分、高知県西部の宿毛（すくも）市で震度6弱の地震が起きた。

確かに、南海トラフ地震だと思ってもおかしくはない。「30年以内に70～80％」の確率で起きるとされてきた。最大震度7。最悪の想定では、県内の沿岸を最大30メートル超の津波が襲い、死者は4万人を超すとの推計もある。

ただ、高知市の震度は3。繁華街にいた私を含め、県民の大半は手元のスマホなどで宿毛の大揺れを知った。「津波の心配なし」に胸をなで下ろしつつ、降版の迫る本社へと急ぐ。夜勤デスクと宿直の2人だけだった報道部に部員がわらわら集まってきた。

宿毛支局長は大揺れをしのぐと外へ出て、倒れた街灯の写真を送ってきた。それに県内情報を加えて1面に押し込むそばで、3人のデスクがどたばた取材先を割り振る。混乱の中、未明の気象庁会見を迎えた。

震源はプレート内部で、南海トラフ地震とは仕組みが違うという。ひとまず最悪想定は遠のいた。とはいえ、余震の可能性はある。被害の全容も見えていない。宿毛市まで車で2時間半。途中で海沿いも通る。

夜のうちに部員を送り込んでいいものか―。迷ううち、ヘルメットを抱えた部員2人が寄ってきた。「じゃ、行きますね」

短いやりとりを交わし、「頼む」と送り出した。数時間後、暗い路上で砕けた屋根瓦の写真などが届き始めた。

### ■「ずっと恐ろしかった」

夜明けとともに、被害がはっきりしてきた。家々の瓦はずり落ち、水道管は割れ、図書館の本棚はドミノ倒しに。酒販店の床には酒瓶が散乱していた。

多くの住民は眠れぬ夜をすごしていた。玄関先で朝を迎えたお年寄りは声を震わせ、「パニックで動けなかった」「何が起きたのか…」。地震によるけがは2人、幸い死者は出なかった。

1946年、県内で679人の死者・行方不明者を出した昭和南海地震の震度は、公式には「5」。その記憶を残す90代女性は「今回の方がずっと恐ろしかった」との証言を寄せる。

一方、6弱の観測は、宿毛市中心部の桜町と愛媛県愛南町の震度計のみ。桜町は、河川の土砂が堆積した軟弱地盤で、ここだけが震度1を観測することも多い。今回も、限られた地域に被害が集中していた。

### ■「次」は刻々と迫っている

実は高知県はプレートの数と重なり具合により、平素から地震の発生が極端に少ない。それでいて、100～150年おきに巨大な南海トラフ地震が起きる。まさに「忘れたころにやってくる」と言っていい。

前回から今年で78年。被災の記憶が薄れがちな中、「次」は刻々と迫る。地元紙として焦りが募っていた元日、能登半島地震が起きた。土煙とともに古い家々が崩れる映像は、遠くのものとは思えなかった。

記者を能登に継続派遣し、高知の課題に引き寄せて長期で報じると決めた。1月の第1陣には車中泊を前提に「何でも買っていい」と入念に準備させていた。震度6弱の夜、さっと装備を積んで社を出たのはこの2人。その横で、翌々日から能登に向かう第2陣の準備が進んでいた。

あれから1カ月余り。宿毛市では傷んだ家々の修復が続く。各市町村やホームセンターには、住宅耐震化や家具固定の相談がぐっと増えたという。突然、日常が壊される地震。少なからぬ県民がその事実と向き合い、「次」へと意識を向けた。それが今回の地震だった。



激しい揺れにより日本酒やワインの瓶が散乱した酒販店（4月18日午前9時20分ごろ／高知県宿毛市／高知新聞社提供）

おおやま・てつや▼1995年高知新聞社入社　社会部、嶺北支局、東京支社などを経て　2023年から現職

私が会ったあの人

# 永田和宏さん 歌人、細胞生物学者
# 自分と向き合うこと学ぶ

岩橋 裕介（共同通信社）

ちかごろ、一人でぼんやりともものを思ったり、切に考えたりすることが少なくなった。正しくは、何やら考える前に、ササッとグーグルで解答を調べてしまっている。

自粛期間中は、あるときはベランダから夜空を眺め、またあるときは海辺の公園で木漏れ日を見上げながらじっと考える時間もあったのに。

はっきり言って、怠惰すぎる。想像は創造の母。ものを思うからアイデアも生まれ、原稿の表現の幅も広がるはずだ。

実はコロナ禍、周囲に大事に至った人がいなかったこともあるが、そう悪いことばかりではなかったのかもしれない。



瑞宝中綬章受章が決まり心境を語る永田和宏さん（2019年/京都市/共同通信社提供）

前振りだけで200字も使ってしまった。今回、この「もの思う」ことをテーマに書いてみようと思う。

## ■ねむいねむいで科学と短歌

この「もの思う」を思索するきっかけになったのは、歌人で細胞生物学者の永田和宏先生の取材だ。

初めてお会いしたのは瑞宝中綬章を受章された2019年のころ。永田先生といえば、妻の故河野裕子さんとともに現代歌壇を代表する歌人であり、学者としても世界で名をはせる。紛れもないスーパーマンだ。

そんな方の会見とあって大緊張したものだが、キャリアから連想されるような孤高だったり、お堅かったりする雰囲気は全くなく、気さくに接してくれたのを覚えている。

科学と短歌の二つを両立させるには並大抵の苦労ではなく、睡眠時間を削るしかなかったという。その状況を詠んだのがこの歌だ。

〈ねむいねむい廊下がねむい風がねむい　ねむいねむいと肺がつぶやく〉

忙しい毎日に疲れ、全てほっぽり出したいような悲哀の歌なのに、音楽的な読み心地の良さ。私には逆立ちしたって書けっこない。

## ■雲の上のオーラ、ユニーク

雲の上のようなオーラも持ち合わせながら、ユニークさたっぷり。このとき、おこがましくも（じっくりお話ししてみたい）と直感した。

それから半年。世間が「これからどう生きていくか」を考え始めたとき、インタビューさせていただいた。

コロナ時代について尋ねると「『打ち勝つ』なんて言葉が飛び交っていますが、ウイルスは生き物ではないし、まして『人類を攻撃しよう』なんて意思はありません」と笑われてしまった。そして心を込めて言う。

「こんな状況だからこそ、孤独の中で自分と向き合う時間を持ってほしい。今、本当に会いたい人は誰なのか。その大切さに気付くことができると思いますよ」

その意味深さに、しばらく考え込んだ。

コロナ禍の影響で、永田先生は最後の講義が延期になった。その気持ちをこう歌われている。

〈最終講義も延期となりてさしあたり宙ぶらりんのぶらに揺れをり〉

自分の存在や役割が明確にならないとき、人は社会や他者との関係や距離で自身の位置を再認識できる。そんな思いが込められているのではなかろうか。

ところで今年、コロナ下に出会った女性と結婚することになった。

プロポーズした際、妻はこう返した。

「1日でいいから、私より長生きしてね」

よもや「めぞん一刻」の名台詞の引用ではないだろうが、パートナーとして何をなすべきであろうかと考えさせられた。

一人でものを思うだけでなく、夫婦として相手を見つめ、思い合うことで、人生観や考え方がまた変わるかもしれない。

想像すると、胸がときめく。

（いわはし・ゆうすけ　2013年入社　社会部　京都支局などを経て21年から再び社会部所属）

次号は岩橋さんの京都支局時代の司法クラブの先輩記者、冨田芳夫さん（京都新聞社）にバトンが渡ります。

# 市民から遠い権力 裁判官 その素顔、肉声を紙面に



井上（いのうえ）　裕之（ひろゆき）

1957年福岡県生まれ　82年西日本新聞社入社　社会部　東京報道部　北京特派員　取締役編集局長　論説委員長などを経て　2022年11月退社　共著に『裁きを裁く～危機に立つ司法』『少年～「親と子」の悲劇を追う』など

国家機関の中でもガードの堅さは筆頭格。権威や形式にこだわり、前例のない取材は嫌う。そんな手強い相手が意外にも折れたのは１９９０年の春先のことでした。

「いいでしょう。そこまで言われるなら協力しましょう」。福岡高裁の小長光馨一（こながみつけいいち）・事務局長判事（当時）は意を決したような言葉で私たちの申し入れに応じました。

## ◆「だめ元」戦術で企画実現

裁きを裁く―。90年1月から約1年半にわたり社会部で連載を軸に展開したキャンペーン企画。剣術に例えるなら、まさに大上段に振りかぶったタイトルでした。発案者である私は先輩記者から「本気でやりたいならこのタイトルで行け」と覚悟を促され、取材に奔走しました。

市民の感覚と乖離（かいり）した司法の病理を掘り下げつつ、両者の距離を縮める企画にしたい。そのためには法の番人である裁判官の肉声を聞き、彼らの素顔を描かねばならない。

私はこの思いを率直に小長光判事や当時の可部（かべ）恒雄・福岡高裁長官にぶつけ、裁判官への個別取材、実名での紙面掲載を認めるよう折衝を重ねました。たとえ無理でも正面から体当たりする「だめ元」の戦術でした。それが奏功し、取材の壁を崩す突破口になりました。

「裁判所ＮＯＷ～法服の肖像」。こう題した連載第5部を中心に、裁判官の声が続々と紙面に刻まれました。多忙を極める仕事の実態や人を裁くことの難しさ、極刑を言い渡す時の苦悩…。実名で登場したのは九州の地・高裁や支部などで勤務する18人。その多くは写真の撮影、掲載にも応じてくれました。当時としてはまさに前例のないことでした。

小長光判事は後に福岡地裁長官、可部長官は最高裁判事へと上り詰めました。二人が取材の許可を巡り最高裁事務総局とどう渡り合ったのか、詳しい話は聞けませんでした。ただ「裁判所はもっと開かれた場所になるべきだ」と訴える私の話を遮ることはありませんでした。

## ◆「司法難民」と呼ぶべき人々

82年に入社した私は初任地の北九州市で福岡地裁小倉支部、続いて本社社会部で福岡地・高裁本庁を担当しました。地裁支部の中でも小倉は本庁並みに事件が多く、福岡地・高裁本庁では重要事件が目白押し。記者室と法廷の間を往復する日々が続く中、裁判所内で度々目にするようになった光景こそが企画案を温める素朴な出発点になりました。

所内をきょろきょろしながら迷い人のように歩く市民。法律トラブルを抱えていても経済的事情などから弁護士には依頼できない。そこで恐る恐る裁判所に足を運んだものの、どこの窓口でどんな手続きをすればいいのか分からない。いわば「司法難民」と呼ぶべき人々です。

その頃の裁判所は入り口にいかめしい顔つきの守衛さんがいてロビーには簡単な案内図があるだけ。一般市民に親切に対応する窓口はありませんでした。「これでは市民を遠ざけているに等しい」と私が訴えても職員は「来庁者の大半は法曹関係者ですから」と冷たい反応でした。

困惑した市民が記者室に助けを求めてくることも少なくありませんでした。裁判は公開が原則とされながら、傍聴者がメモを取る行為は禁止（89年3月から解禁）、報道機関によ

る法廷内の写真撮影も不可（91年1月から開廷前に限り条件付きで解禁）といった閉鎖性への疑問や怒りも膨らんでいました。

88年から順次断行された司法行革も見逃せない動きでした。全国の簡裁139カ所、地裁支部41カ所の統廃合。これには大反発が起きてもおかしくない。と思いきや、法律家や一部地域を除いて反対の火の手が広がることはありませんでした。

裏返せば「裁判所はなくて構わない」という住民の意思表示。つまり司法が地方を切り捨てた一方で、司法もまた住民から見放されてしまった。私の目にはそう映りました。



左 連載を収録した本。表紙を見るだけで30年以上前の記憶がよみがえる 右 筆者が時々訪れる「日刊新聞発祥の地」記念碑/横浜市中区（いずれも筆者提供）

「実は我々も喜べない話です」。こう吐露した裁判官もいました。市民の司法離れや裁判所予算削減への危惧。それが私たちの取材に応じる機運を呼び覚ましたのも事実です。

## ◆勇気ある裁判官との出会い

社内では「地方紙が司法の全体像に迫るのは無理」との声もありました。それでも反響は広がり、こんな電話がかかってきました。「裁判官を集めておくから大阪まで来てほしい」。私たちの企画に協力したいという現職の裁判官からでした。

指定されたホテルの会議室に行くと、関西地区で勤務する現職と元職の10人がずらり。匿名ながら制度の矛盾点や最高裁による裁判官統制の実態を詳しく話してくれました。

裁判官の自主的研究グループの世話人だった石松竹雄・大阪高裁判事（当時）は気骨ある人でした。自宅の書斎で取材に応じ、検察の捜査や刑事裁判の問題点に触れつつ「裁判官の自由なくして人の自由を裁判で守ることはできない」と語りました。

裁判の形骸化や長期化、誤判を生む体質、司法をあざ笑う事件屋の暗躍…。8部にわたった連載は、司法の矛盾に直面して苦悩した九州の当事者や、実名・匿名合わせて計40人近くの勇気ある裁判官たちの声で肉付けされていきました。

無論、これらは問題の断面にすぎず、実相を描き切ったとまでは言えません。司法の病理を半ば看過してきたメディアの責任も否めず、自戒の念にも駆られました。

国が司法制度改革審議会の意見書「21世紀の日本を支える司法制度」を受け、改革に踏み出したのは2001年。私たちの企画から10年後のことです。裁判の迅速化、裁判員裁判の導入、法曹養成の見直し、法テラスの設置などは評価できます。

他方で訴訟件数（弁護士需要）の伸び悩みや法科大学院の挫折といった課題にも直面しています。現在進行中の裁判手続きのデジタル化に危うさはないのか。その点も含め、メディアは改革の行方を引き続き注視していくべきでしょう。

## ◆影響力衰え裁かれる新聞

取材の現場から離れても、ここを訪れるとペンを握りたくなる。そんな場所が今の私の職場近くにあります。日刊新聞発祥の地である横浜市中区の中心部にある日本新聞博物館（ニュースパーク）です。

日本の活字メディアは横浜を起点に全国に広がり、在野の精神で社会と向き合う数多くの記者たちを輩出してきました。ささやかながら自分もその一人である、とあらためて気づかされます。

新聞の歩みを伝える博物館では、情報が氾濫するインターネット社会の功罪やメディアの機能を検証する企画展を開催。見学に訪れる子どもたちに情報リテラシーを授けたり、取材を疑似体験してもらったりするコーナーも設けています。

平野新一郎館長によると、今年2月には館内で東北・北海道の新聞8社が合同会社説明会を開いたそうです。時代の波に翻弄されるメディアが原点に立ち返り、新たなジャーナリズムの歴史を紡いでいく。そうした姿勢にも共感を覚えます。

かつてほどの影響力を持ち得ない新聞は今、その存在意義を厳しく問われ、むしろ裁かれる立場に置かれている。逆説的に見れば、そんな構図が頭に浮かびます。

くしくも新聞博物館の対面には地上13階建ての横浜地裁がそびえ立ち、両者が対峙しているかのようです。今の私がこの寄稿を通じて記者人生を振り返る機会を与えられたことも巡り合わせの妙なのか。不思議な縁を感じます。

# 正味財産増減計算書内訳表

自　2023年4月1日　　至　2024年3月31日

（単位：円）

| 科目 | 公益目的事業会計 | | | | | 収益事業等会計 | 法人会計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 公1<br>記者会見等 | 公2<br>クラブ賞 | 公3<br>会報・HP | 共通 | 小計 | | | |
| Ⅰ一般正味財産増減の部 | | | | | | | | |
| 1．経常増減の部 | | | | | | | | |
| （1）経常収益 | | | | | | | | |
| 特定資産運用益 | | 1,165,337 | | 9,318 | 1,174,655 | | | 1,174,655 |
| 受取会費 | | | | 226,128,396 | 226,128,396 | | 63,779,804 | 289,908,200 |
| 法人会員会費収入 | | | | 150,349,836 | 150,349,836 | | 42,406,364 | 192,756,200 |
| 個人会員会費収入 | | | | 41,762,760 | 41,762,760 | | 11,779,240 | 53,542,000 |
| 賛助会員会費収入 | | | | 34,015,800 | 34,015,800 | | 9,594,200 | 43,610,000 |
| 事業収益 | | | | | | 50,322,201 | | 50,322,201 |
| 貸室料収入 | | | | | | 32,492,695 | | 32,492,695 |
| 飲食売上割戻し | | | | | | 11,098,606 | | 11,098,606 |
| 施設機器賃借料 | | | | | | 6,730,900 | | 6,730,900 |
| 雑収益 | | | | 284 | 284 | 189,622 | 34 | 189,940 |
| 受取利息 | | | | 284 | 284 | 60 | 34 | 378 |
| その他の雑収入 | | | | | | 189,562 | | 189,562 |
| 受取寄付金 | | | | 100,000 | 100,000 | | | 100,000 |
| 経常収益計 | | 1,165,337 | | 226,237,998 | 227,403,335 | 50,511,823 | 63,779,838 | 341,694,996 |
| （2）経常費用 | | | | | | | | |
| 事業費 | 135,068,530 | 10,207,558 | 45,926,350 | 57,140,915 | 248,343,353 | 43,729,878 | | 292,073,231 |
| 借室維持費 | 76,146,465 | | | 57,140,915 | 133,287,380 | 25,340,732 | | 158,628,112 |
| 借室料 | 39,152,837 | | | 24,470,523 | 63,623,360 | 19,576,418 | | 83,199,778 |
| 共益費 | 7,581,976 | | | 4,738,735 | 12,320,711 | 3,790,988 | | 16,111,699 |
| 空調・光熱費 | 3,946,652 | | | 2,466,657 | 6,413,309 | 1,973,326 | | 8,386,635 |
| ホール専用利用費 | 25,465,000 | | | 25,465,000 | 50,930,000 | | | 50,930,000 |
| 人件費 | 45,385,863 | 7,832,982 | 28,613,324 | | 81,832,169 | 17,797,541 | | 99,629,710 |
| 役員報酬 | 6,375,000 | 1,275,000 | 5,100,000 | | 12,750,000 | | | 12,750,000 |
| 給与金 | 24,769,812 | 3,567,790 | 14,363,262 | | 42,700,864 | 11,570,584 | | 54,271,448 |
| 賞与・諸手当 | 13,961,362 | 2,944,662 | 8,987,452 | | 25,893,476 | 6,129,391 | | 32,022,867 |
| 厚生費 | 279,689 | 45,530 | 162,610 | | 487,829 | 97,566 | | 585,395 |
| 事業費 | 12,694,891 | 2,374,576 | 17,313,026 | | 32,382,493 | | | 32,382,493 |
| 会議費 | 1,686,621 | 64,870 | 410,843 | | 2,162,334 | | | 2,162,334 |
| 事業運営費 | 9,510,854 | 365,802 | 2,316,747 | | 12,193,403 | | | 12,193,403 |
| 会報発行・HP運営費 | | | 13,497,189 | | 13,497,189 | | | 13,497,189 |
| クラブ賞実施費 | | 1,676,265 | | | 1,676,265 | | | 1,676,265 |
| 運営雑費 | 197,131 | 7,582 | 48,019 | | 252,732 | | | 252,732 |
| 通信費 | 1,262,164 | 252,433 | 1,009,731 | | 2,524,328 | | | 2,524,328 |
| 印刷費 | 37,400 | 7,480 | 29,920 | | 74,800 | | | 74,800 |
| 交通費 | 721 | 144 | 577 | | 1,442 | | | 1,442 |
| 減価償却費 | 841,311 | | | | 841,311 | 591,605 | | 1,432,916 |
| 管理費 | | | | | | | 45,786,781 | 45,786,781 |
| 借室維持費 | | | | | | | 19,005,549 | 19,005,549 |
| 借室料 | | | | | | | 14,682,314 | 14,682,314 |
| 共益費 | | | | | | | 2,843,241 | 2,843,241 |
| 空調・光熱費 | | | | | | | 1,479,994 | 1,479,994 |
| 人件費 | | | | | | | 10,886,081 | 10,886,081 |
| 役員報酬 | | | | | | | 2,250,000 | 2,250,000 |
| 給与金 | | | | | | | 5,163,632 | 5,163,632 |
| 賞与・諸手当 | | | | | | | 3,407,404 | 3,407,404 |
| 厚生費 | | | | | | | 65,045 | 65,045 |
| 退職引当金繰入 | | | | | | | | |
| その他の管理費 | | | | | | | 15,832,626 | 15,832,626 |
| クラブ管理費 | | | | | | | 11,926,389 | 11,926,389 |
| 機器備品費 | | | | | | | 93,390 | 93,390 |
| 消耗品費 | | | | | | | 603,592 | 603,592 |
| 事務委託費 | | | | | | | 2,021,265 | 2,021,265 |
| 事務雑費 | | | | | | | 537,847 | 537,847 |
| 通信費 | | | | | | | 631,082 | 631,082 |
| 印刷費 | | | | | | | 18,700 | 18,700 |
| 交通費 | | | | | | | 361 | 361 |
| 減価償却費 | | | | | | | 62,525 | 62,525 |
| 経常費用計 | 135,068,530 | 10,207,558 | 45,926,350 | 57,140,915 | 248,343,353 | 43,729,878 | 45,786,781 | 337,860,012 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | △ 135,068,530 | △ 9,042,221 | △ 45,926,350 | 169,097,083 | △ 20,940,018 | 6,781,945 | 17,993,057 | 3,834,984 |
| 当期経常増減額 | △ 135,068,530 | △ 9,042,221 | △ 45,926,350 | 169,097,083 | △ 20,940,018 | 6,781,945 | 17,993,057 | 3,834,984 |
| 2．経常外増減の部 | | | | | | | | |
| （1）経常外収益 | | | | | | | | |
| 経常外収入計 | | | | | | | | |
| （2）経常外費用 | | | | | | | | |
| 経常外費用計 | | | | | | | | |
| 当期経常外増減額 | | | | | | | | |
| 他会計振替額 | | | | | | | | |
| 当期一般正味財産増減額 | △ 135,068,530 | △ 9,042,221 | △ 45,926,350 | 169,097,083 | △ 20,940,018 | 6,781,945 | 17,993,057 | 3,834,984 |
| 一般正味財産期首残高 | △ 1,385,714,577 | △ 117,479,774 | △ 386,529,814 | 2,341,722,691 | 451,998,526 | 163,191,772 | 130,149,768 | 745,340,066 |
| 一般正味財産期末残高 | △ 1,520,783,107 | △ 126,521,995 | △ 432,456,164 | 2,510,819,774 | 431,058,508 | 169,973,717 | 148,142,825 | 749,175,050 |
| Ⅱ指定正味財産増減の部 | | | | | | | | |
| 指定正味財産期首残高 | | 46,872,328 | | | 46,872,328 | | | 46,872,328 |
| 指定正味財産期末残高 | | 46,872,328 | | | 46,872,328 | | | 46,872,328 |
| Ⅲ正味財産期末残高 | △ 1,520,783,107 | △ 79,649,667 | △ 432,456,164 | 2,510,819,774 | 477,930,836 | 169,973,717 | 148,142,825 | 796,047,378 |

## 貸借対照表　2024年3月31日現在

（単位：円）

| 科目 | 2023年度 | 2022年度 | 増減 |
|---|---|---|---|
| Ⅰ資産の部 | | | |
| 1.流動資産 | | | |
| 現金預金 | 28,891,009 | 24,294,288 | 4,596,721 |
| 仮払金 | 109,157 | 195,485 | △86,328 |
| 立替金 | 4,282,488 | 2,910,171 | 1,372,317 |
| 未収会費 | 6,105,900 | 5,792,300 | 313,600 |
| 未収貸室料 | 1,596,867 | 1,535,107 | 61,760 |
| 前払金 | 11,786,225 | 11,345,208 | 441,017 |
| 流動資産合計 | 52,771,646 | 46,072,559 | 6,699,087 |
| 2.固定資産 | | | |
| (1)特定資産 | | | |
| 退職準備積立預金 | 61,241,926 | 64,087,693 | △2,845,767 |
| 特別修繕積立預金 | 164,973,032 | 164,973,032 | 0 |
| 特別記念事業積立預金 | 44,471,295 | 44,471,295 | 0 |
| 特別システム更新積立預金 | 58,454,782 | 65,318,782 | △6,864,000 |
| クラブ賞積立預金 | 230,957,246 | 230,957,246 | 0 |
| 経営安定化資金積立預金 | 166,414,561 | 166,414,561 | 0 |
| 特定資産合計 | 726,512,842 | 736,222,609 | △9,709,767 |
| (2)その他固定資産 | | | |
| 内装設備 | 3,793,533 | 4,138,307 | △344,774 |
| 什器備品 | 861,009 | 1,733,541 | △872,532 |
| ソフトウェア | 6,754,426 | 168,561 | 6,585,865 |
| 敷金 | 75,938,403 | 75,938,403 | 0 |
| その他固定資産合計 | 87,347,371 | 81,978,812 | 5,368,559 |
| 固定資産合計 | 813,860,213 | 818,201,421 | △4,341,208 |
| 資産合計 | 866,631,859 | 864,273,980 | 2,357,879 |
| Ⅱ負債の部 | | | |
| 1.流動負債 | | | |
| 仮受金 | 2,470,900 | 2,740,500 | △269,600 |
| 預り金 | | 0 | 0 |
| 未払金 | 6,871,655 | 5,233,393 | 1,638,262 |
| 流動負債合計 | 9,342,555 | 7,973,893 | 1,368,662 |
| 2.固定負債 | | | |
| 退職準備引当金 | 61,241,926 | 64,087,693 | △2,845,767 |
| 固定負債合計 | 61,241,926 | 64,087,693 | △2,845,767 |
| 負債合計 | 70,584,481 | 72,061,586 | △1,477,105 |
| Ⅲ正味財産の部 | | | |
| 1.指定正味財産 | | | |
| 指定正味財産合計 | 46,872,328 | 46,872,328 | 0 |
| 2.一般正味財産 | 749,175,050 | 745,340,066 | 3,834,984 |
| 正味財産合計 | 796,047,378 | 792,212,394 | 3,834,984 |
| 負債及び正味財産合計 | 866,631,859 | 864,273,980 | 2,357,879 |

**出席**　榊原委員長、志賀、水野、佐藤、萩原、本橋、稲澤、倉重、二村の各委員。

### ●第550回企画委員会

（5・14　会見場＆オンライン）

今後のゲスト候補について意見交換した。

**出席**　藤井委員長、行方、西山、佐藤、永山、橋本、猪熊、大内、菅野、辻本、高橋、乾、佐々木、森田、杉田、小林、森、山口（英）、早川、山口（哲）、伊藤、今井、川戸、平井、石原、倉澤、迫田の各委員。

### ●第561回会員資格委員会

（5・22　小会議室）

6月1日付入退会を審議、理事会に答申した。

**出席**　前木委員長、早田、山本、村尾、山口、菊池、森安の各委員。

## ■役員交代

**【理事】**

北海道新聞社
（新）窪田　大介　東京支社長
（旧）惣田　浩氏
南日本新聞社
（新）川路　真一　東京支社長
（旧）西　伸樹氏
日本放送協会
（新）傍田　賢治　理事
（旧）中嶋　太一氏

## ■日本記者クラブ賞贈賞式

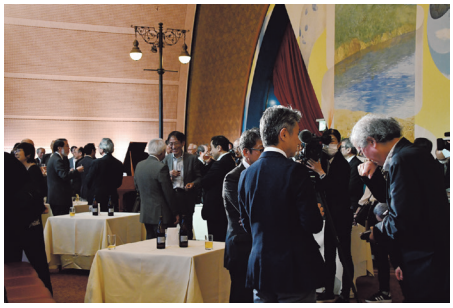
（5・31　10階　レストラン・アラスカ）

日本記者クラブ賞・同特別賞の贈賞式が行われた。沢井俊光副理事長から、クラブ賞受賞の共同通信社客員論説委員の後藤謙次さん、同特別賞受賞の北海道放送ヤジ排除取材班の山崎裕侍さん、テレビ静岡「イーちゃんの白い杖」取材班の橋本真理子さんに表彰状と副賞が贈られた。

贈賞式・パーティーには約70人が出席した。



クラブ賞受賞の後藤謙次さん（中央）と特別賞受賞の山崎裕侍さん（左）、橋本真理子さん（右）



## ■会議報告

### ●第1104回定時社員総会

（5・31　会見場）

書面議決社員を含め出席社員計113社の出席を持って成立（定足数64社）、出席者の了解を得て、沢井俊光副理事長を議長とし、開催された。

2023年度の事業報告（今号付録）・同決算（詳細2ページ、別表16、17ページ）および役員の一部交代を承認した。

### ●第453回会報委員会

（5・8　大会議室）

6月号の編集について協議した。

## マイBOOKマイPR

### 『小さな書斎から』
砂原　和雄（産経新聞出身）

**人生の出会いと別れ**

ふるさと奥飛騨の高校を出て上京。佐藤春夫と出会ったのを機に小説家をめざし、新聞記者生活を経て作家生活へ。小説を書いている合間に、ふと「1カ月ほどしたらまたおいで」と告げた春夫との若いころを思い出したり、ときには散歩中に目についた美しく咲いたばかりの草花にみとれたり、木陰を揺らす小鳥の声に心動かされるなど、心に残る出会いと別れをありのままつづったものです。物書き人生を支えてくれた妻は天国へ召される間際、「元気なうちは一人で頑張ってね」と言いました。本書は妻に捧げるささやかな紙碑です。



静人舎
2,750円

### 『スマホ社会と紙の本』
高橋　文夫（日本経済新聞出身）

**スマホ時代の本の役割とは**

活字メディアが頂上を登り詰めようとする一方、代わりに新興のデジタルメディアがてっぺんを目指し、急坂を上がってくる。そのような状況下でデジタルメディアにあらがう活字メディア、つまり本は読み手にどんな影響を及ぼしているのか。デジタル時代の本の役割とは何か――それらを、現場の目撃者でもある読者からの様々の「証言」として、デジタルメディアに制圧される前に書き留めておきたい、とつづられた新しい時代の読書論。

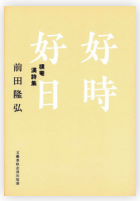


論創社
2,420円

### 『好時好日　櫟菴漢詩集』
前田　隆弘（NHK出身）

**〝風雅の遊び〟つづった一書**

旅や閑居で折々、心に浮ぶことなどを、五言、七言の詩句にする〝風雅の遊び〟に、漢文や中国語の素養も全く無いのに取り組んだ。漢字と戯れながら、規則に沿って並べるだけで、平凡な題材も格調高く表現できたと思え、名句を生み出す夢さえも抱かせる。典故や雅語もかえって新鮮。石川忠久先生指導の下、20年余り詠みためた愚作のうち82首に、発想の背景などの軽いエッセイを添えて、誰にも分かってもらえる漢詩集とした。



文藝春秋
2,970円

## 会報委員から

## 朝ドラ「はて？」に共感

「はて？」――朝のNHK連続テレビ小説『虎に翼』の主人公・猪爪（後に佐田）寅子の口癖が話題になっている。女性が弁護士になれなかった昭和のはじめ、大学が女性に法学の門戸を開いた。そこで法律を学び始めた寅子には、世の中疑問だらけ。その都度発する一言が、現代も様々な「はて」を抱える視聴者に共感を呼んでいる。

寅子のモデルとなった武藤（後に和田、三淵）嘉子ら3人は1938（昭和13）年11月1日、日本で女性で初めて高等試験司法科に合格した。同3日の読売新聞に嘉子が「女と法律」と題して寄稿している。

「幸運にも合格した高等試験、これで日本にもまた一つ女の職業が増えたワケです。私が〝女弁護士〟になったということは、私一個の小さな問題ですが、女が弁護士になれるという制度ができたことは大きな問題です」

それから86年、弁護士に占める女性の割合は2割を超え、『虎に翼』の放送が始まった今年4月1日、日本弁護士連合会に初の女性会長が就任した。本クラブでの記者会見の様子は先月号で既報の通りだ。

朝ドラは時代を映しつつ、様々な女性を主人公にしてきた。男女雇用機会均等法が施行された1986年には、女性記者の草分け磯村春子をモデルに『はね駒』が放送された。磯村は1905（明治38）年、報知新聞に入社、子連れで取材しルビつき記者と呼ばれた。初の国産飛行船浮揚実験に同乗し、航空取材のさきがけにもなった。

女性記者第一号は、1890（明治23）年國民新聞創刊に参画した竹越竹代にさかのぼる。そこから新聞記者に占める女性の比率は2018年に2割を超え、2023年は24・7％になった。

さて、日本新聞協会、日本記者クラブ。トップが歴代男性なのはまだしも、現在の新聞協会役員53人、日本記者クラブ役員32人いずれも全員男性で占められている。

はて？

読売新聞出身　稲澤　裕子

## レストラン＊価格は全て税込みです

予約電話　和食 3503-2723　洋食 3503-2766・2731

**和食　六月お献立（6/29まで）**

先付前菜：焼き茄子水晶寄せ、海老芝煮、青梅白ワイン煮、鴨ロース、沢カニ唐揚げなど　馬上杯：白瓜雷干し、明太子和え　椀盛り：玉蜀黍（とうもろこし）真丈など　造り：福子洗い、芽物一式　焼き物：鮎塩焼き、たで酢　炊き合わせ：冬瓜、豚角煮　酢の物：ジュンサイ・キウイ酢、はす芋　食事：穴子茶漬け　甘味：チーズケーキ、抹茶アイス（5,500円）　（板長：薫田勝）
※仕入れの都合により内容が変わることがあります

**洋食　季節のおすすめコース（6/29まで）**

スモークサーモンと枝豆のタルタル、牛蒡のクリームスープ、牛フィレ肉のステーキ グレイビーソース、メロンのムース、コーヒーまたは紅茶、パンまたはライス（4,400円）。ランチ、ディナーともに9階レストランでもご提供します。
（シェフ：佐藤和治）

## HP情報　https://www.jnpc.or.jp/

### ■音声アーカイブ　会見の音声録音

●小山内美江子さん



先月、死去したドラマ「3年B組金八先生」で知られる脚本家の小山内美江子さんは、1996年5月に総会記念講演会のゲストとして登壇しています。カンボジアでの学校作りのボランティア活動、教育論などについて話しました。この会見の音声を公開しました。

## 今後の行事予定（6/3現在）

| | |
|---|---|
| 17㊊ | 14：00～15：30　10階ホール<br>「中国で何が起きているのか」⑭<br>宮本雄二 元駐中国大使 |
| 18㊋ | 15：30～17：00　9階会見場<br>山川宏 JAXA（宇宙航空研究開発機構）理事長　会見 |
| 21㊎ | 17：30～18：39　10階ホール<br>試写会「方舟にのって－イエスの方舟45年目の真実－」 |
| 7月5㊎ | 13：30～15：00　10階ホール<br>「中国で何が起きているのか」⑮<br>中尾武彦 みずほリサーチ&テクノロジーズ理事長 |
| 10㊌ | 17：00～18：00　10階ホール<br>日本記者クラブ賞受賞記念講演会<br>後藤謙次 共同通信社客員論説委員 |
| 17㊌ | 17：00～19：00　10階ホール<br>日本記者クラブ賞特別賞受賞記念講演会<br>山﨑裕侍 北海道放送コンテンツ制作センター報道部デスク、橋本真理子 テレビ静岡報道制作局長兼情報ニュース部長、小長谷唯織さん |

## 新しい個人D会員

**熊倉（くまくら） 逸男（いつお）**



1982年中日新聞入社。東海本社報道部、名古屋本社社会部、東京本社外報部、ボン支局、ベルリン支局、東京本社論説室を経て、2024年3月退社。

世界の激動は続き、11月の米大統領選では「もしトラ」の可能性もささやかれています。国際情勢への関心を深めたく、入会しました。

**坪井（つぼい）ゆづる**



1982年朝日新聞入社。政治部、編集委員、東北復興取材センター長、論説委員、夕刊「素粒子」を担当し、2023年退社。現在は地方自治総合研究所客員研究員。

穏やかな日々を過ごすには、世の中の動きを見ておかねばならないと考え、入会します。まずは足元の政治を見つめ直すことから。

**吉岡（よしおか） 昇（のぼる）**



1974年日本経済新聞入社。編集局総務・論説委員、電子メディア局長、常務経営企画担当、専務デジタル事業統括など歴任。2013年からQUICK社長、会長を務め、現在参与。

新聞編集と電子メディアを経験。国力の低下が著しい日本の復活に向けて、メディアはどう貢献できるか、考えていきたいと思います。

## ＜法人代表変更＞

・日経BP　井口哲也 代表取締役社長CEO
（旧 吉田直人氏）
・NHKグローバルメディアサービス
馬場広大 代表取締役（旧 傍田賢治氏）

## ■訃報

中村靖彦さん（NHK出身、88歳）が4月30日に、稲川素子さん（特別賛助会員、90歳）が5月13日に死去されました。

ご冥福をお祈りいたします。

## 第114回ゴルフ会開催のお知らせ

ゴルフ会を下記の要領で開催します。先着順ですので、お早めにお申し込みください。

日程：7月2日（火）9時7分から4組
場所：本厚木カンツリークラブ（神奈川県厚木市飯山1700）
費用：約21,000円（プレー代など）、参加費：3,000円
連絡先：（事務局・河野 kono@jnpc.or.jp 03－3503－2764）

**クラブの電話　ダイヤルイン**

- 和食レストラン（9階）……☎3503-2723
- 洋食レストラン（10階）……☎3503-2766
- 貸室予約、宴会打ち合わせ…☎3503-2724
- 受　付……☎3503-2721
- 会員事務……☎3503-2727
- 経　理……☎3503-2728
- クラブ行事への申し込み……☎3503-2722
- 会見申し込みアドレス…kaiken@jnpc.or.jp

**会員現況**

●法人会員：127社　●基本会員：715人　●個人会員：1,029人
●法人・個人賛助会員：54社・117人　●特別賛助会員：97人
●名誉・功労会員：12人　●学生会員：40人　計181社・2,010人

**会報委員会**
委員長＝榊原　智
委　員＝荒川　康一　稲澤　裕子　勝田　洋人　倉重　篤郎　佐藤　庄太　志賀　英樹　二村　伸　萩原　豊　水野　雅央　本橋　春紀
（事務局：本庄五月　西村志織）
☎03-3503-2754　FAX 03-3503-7271

# 写真回廊

撮影：小原　雄輝（日本経済新聞社先端ビジュアルセンター 写真映像グループ）



春の園遊会に参加する天皇、皇后両陛下の長女愛子さま（中央）＝４月23日

## 「園遊会」とある批評家

大輪が咲いたようだ、と詠んだ川柳を載せた新聞もあった。愛子さまが園遊会に初めて参加された。天皇、皇后両陛下のまな娘の笑顔でのデビューを、多くの人が温かいまなざしで迎えた。

両陛下主催で春と秋に開かれる園遊会。戦前は観桜会、観菊会と呼ばれたそうだ。もとはといえば、鹿鳴館での舞踏会と同じ目的で明治の早い時期に始まった。条約改正交渉への側面工作のためであった。

鹿鳴館外交の方は批判にさらされて短期で終わったが、園遊会はすっかりと日本の年中行事になり、季語ともなって、いまも続く。観桜、観菊を取り込んで、日本の文化になじんだからだろう。

園遊会といえば、キャサリン・マンスフィールドの秀作短編のタイトルでもある。『夏目漱石』がデビュー作といわれる文芸評論家、江藤淳だが、同書を書きだす前の年にこの秀作をめぐる評論「マンスフィールド覚書」とその「補遺」を同人誌に相次いで、発表している。当時江藤は21歳、結核療養中で「暗澹たる心境」だったと自筆年譜に記している。

「覚書」と「補遺」を書き継ぐ合間の１９５４年夏、江藤は自殺を試みている。５年前に公刊された平山周吉による詳細な評伝『江藤淳は甦える』が明らかにした。

死の影をはらんだマンスフィールドの短編「園遊会」をめぐる鋭利な批評「覚書」と、この閨秀作家の生涯をたどった「補遺」を続けて読むと、大きな転位を感じる。これが批評家江藤淳の誕生の瞬間だと早くも55年前に見抜いたのは柄谷行人であった（「江藤淳論」）。

江藤淳は皇后を通じて、愛子さまの遠縁に当たる。その江藤が逝って、この７月でちょうど４半世紀だ。

（共同通信出身　会田　弘継）

# 2023年度事業報告（概要）

＊完全版をウェブサイトに掲載しています

**189回のプレス行事、ハイブリッド会見が常態に**

公益社団法人日本記者クラブは2023年度、合計189回のプレス向け行事（記者会見、研究会、記者ゼミ、記者研修会、取材団）を主催した。一般行事を加えた行事総数は210回だった。コロナを機に始めた会場とオンライン併用のハイブリッド形式の開催が常態化した。記者会見・研究会の平均参加者数は74・3人と22年度並みに推移したものの、目標の80人には達しなかった。会場参加比率は37・6％と22年度から大きな変化はなかった。

最多の参加人数を記録したのは7月の訪日中に2度会見した国際原子力機関（IAEA）のラファエル・マリアーノ・グロッシ事務局長の東京電力福島第一原発の処理水海洋放出計画の検証報告書に特化した会見（7・4 377人）だった。グロッシ事務局長が訪日を総括した会見（7・7 246人）、ジャニーズ問題に関連した国連「ビジネスと人権」作業部会メンバーによる会見（8・4 276人）、その1時間後に開催した「ジャニーズ性加害問題当事者の会」（8・4 216人）にも200人を超える記者が参加した。新任の呉江浩駐日中国大使（4・28）、カンヌ国際映画祭で最優秀男優賞を受賞した役所広司さん（6・13）、ハマス・イスラエル軍事衝突関連で登壇したギラッド・コーヘン駐日イスラエル大使（10・12）とワリード・シアム駐日パレスチナ大使（10・16）、日本共産党委員長に就任した田村智子さん（3・19）などの注目会見にも多くの記者が集まった。

「ジャニーズ問題から考える」「ハマス・イスラエル衝突」のほか、「関東大震災100年」「中国で何が起きているのか」「能登半島地震」「〈政治とカネ〉を問う」「2024米大統領選」など、新たに17のシリーズ企画を開始した。

取材団・プレスツアーについては東京電力福島第一原子力発電所への取材団を1月29日―2月1日に派遣した。22年度と同様、取材地域が異なる2班（A班＝双葉町、B班＝大熊町）に分けて企画した。各班10社10人が参加した。

刑事施設を取材する企画もスタートし、収容定員が日本最多の府中刑務所を訪問（2・22）。27人が参加した。

恒例の記者研修会は今回4年ぶりに8月に開催した。昨年と同様に、会場とリモートでのハイブリッド形式で実践重視の4講座を2日に分けて行った（8・24、25それぞれ会場・リモート合わせて約60人参加）。

現役記者向けの土曜記者ゼミ「調査報道」（10回開催）と「IT講座」（9回開催）は、23年度も記者が記者に教える形式で、調査報道の手法や実践例、パソコンやウェブの使い方を紹介し対面とオンライン併用で行った。

記者研修会、記者ゼミの講師名などはウェブ版に掲載。

試写会は「ハマのドン」や「わたしたちの国立西洋美術館」などドキュメンタリーを中心に18回開催した（詳細はウェブ版に掲載）。

**■クラブ賞はTBS西野智彦さん、特別賞はRSK山陽放送、免田事件資料保存委員会**

23年度の日本記者クラブ賞は、TBSテレビ常勤監査役の西野智彦氏に贈り、特別賞はRSK山陽放送「RSK地域スペシャル・メッセージ」取材班と「免田事件資料保存委員会」に贈った。

**■貸室収入 コロナ前の8割まで回復、飲食は64・1％**

新型コロナウイルスの「5類」移行に伴い、貸室と飲食も徐々に回復を見せ、23年度の総利用回数は833件で前年度を123件上回ったが、コロナ前の18年度の74％にとどまった。飲食割り戻し収入も前年を上回ったが、18年度に比べると64・1％だった。

**■貸室料10％引き上げを決定、機器類貸出料の一部値上げ**

プレスセンタービルの共益費の値上げ、光熱費などの諸費用の高騰を受けて、第708回理事会（3・5）は、24年10月から貸室料金を10％値上げすることを決定した。

貸室の機器類の貸出料を、24年4月から一部値上げした。

**■新年互礼会員懇親会4年ぶりに開催**

23年度はコロナ禍で中止してきた年初恒例の新年互礼会員懇親会（1・23）を4年ぶりに開催した。各社会員、政治家、各国大使館の関係者ら143人が参加した。

24年3月31日現在での会員数は法人会員127社（対前年比プラス1社）、法人賛助会員53社（同マイナス3社）、会員総数2041人（同マイナス30人）。

# 行事リスト

ゲスト欄「＊リ」はゲストがリモート登壇、参加者欄の「会」は会場参加、「リ」はリモート参加。

## 記者会見、研究会 167回

| | 開催日 | 参加者 会 | リ |
|---|---|---|---|
| 酒井啓子　千葉大学教授【イラク戦争から20年】 | 4月5日 | 23 | 46 |
| ジュリア・ロングボトム　駐日英国大使 | | | |
| 佐藤博樹　東京大学名誉教授【人口減少80万人割れの衝撃（1）】 | 4月6日 | 22 | 41 |
| 隈部兼作　ロシア・ユーラシア政治経済ビジネス研究所代表【ウクライナ（22）】 | 4月10日 | 16 | 47 |
| ジャスティン・ラウール・ヘイハースト　次期駐日オーストラリア大使 | 4月13日 | 29 | 32 |
| 永濱利廣　第一生命経済研究所首席エコノミスト【植田日銀の課題（1）】 | 4月18日 | 18 | 50 |
| 三成美保　追手門学院大学教授＊リ【多様性社会への課題（1）】 | 4月18日 | | 28 |
| 河野龍太郎　BNPパリバ証券チーフエコノミスト【植田日銀の課題（2）】 | 4月21日 | 23 | 73 |
| 筒井淳也　立命館大学教授【人口減少　80万人割れの衝撃（2）】 | 4月24日 | 24 | 56 |
| 立石結夏　弁護士【多様性社会への課題（2）】 | 4月25日 | 7 | 23 |
| 佐々井司　福井県立大学教授【人口減少80万人割れの衝撃（3）】 | 4月26日 | 18 | 51 |
| 権丈善一　慶應義塾大学教授【人口減少80万人割れの衝撃（4）】 | 4月26日 | 35 | 58 |
| ニコラ・フィリベール　ベルリン国際映画祭金熊賞受賞「アダマン号に乗って」監督ら | 4月27日 | 30 | 47 |
| 呉江浩　駐日中国大使 | 4月28日 | 100 | 59 |
| 齊藤貢　前駐イラン大使【今、起きつつある中東の地殻変動】 | 5月10日 | 23 | 46 |
| 脇祐三　ジャーナリスト【いま、なぜグローバルサウスが重要か】 | 5月11日 | 18 | 51 |
| 藤波匠　日本総合研究所上席主任研究員【人口減少　80万人割れの衝撃（5）】 | 5月12日 | 16 | 44 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 神谷悠一　LGBT法連合会事務局長【多様性社会への課題（3）】 | 5月12日 | 11 | 35 |
| アンドレアス・シュライヒャー　OECD教育・スキル局長兼事務総長教育政策特別顧問 | 5月15日 | 22 | 32 |
| 新里宏二　優生保護法被害全国弁護団共同代表、徳田靖之　優生保護法被害大分弁護団団長、原告の飯塚淳子（仮名）さんら【旧優生保護法国賠訴訟 会見】 | 5月15日 | 29 | 35 |
| 瀬畑源　龍谷大学准教授【放送法文書をどう読むか（1）】 | 5月18日 | 19 | 41 |
| 鈴木秀美　慶應義塾大学教授【放送法文書をどう読むか（2）】 | 5月19日 | 20 | 52 |
| 武村雅之　名古屋大学特任教授【関東大震災100年（1）】 | 5月22日 | 33 | 53 |
| 内藤忍　労働政策研究・研修機構副主任研究員【多様性社会への課題（4）】 | 5月25日 | 8 | 30 |
| 袴田武史　ispace代表取締役CEO&Founders【民間月面探査プログラム「HAKUTO－R」ミッション1成果報告会見】 | 5月26日 | 50 | 148 |
| 前沢賢　ファイターズ スポーツ&エンターテイメント取締役事業統轄本部長ら【「エスコンフィールドが描くボールパークの未来」】 | 5月29日 | 19 | 46 |
| 青山佾　元東京都副知事【関東大震災100年（2）】 | 6月2日 | 23 | 59 |
| 鎌野邦樹　早稲田大学大学院教授、五十嵐敬喜　法政大学名誉教授、山本理顕　建築家【マンション政策の行方】 | 6月5日 | 24 | 46 |
| 柳沢正和　ゴールドマン・サックス証券プライム・サービス部長【多様性社会への課題（5）】 | 6月6日 | 10 | 25 |
| ポール・ヨンソン　スウェーデン国防相 | 6月6日 | 29 | 38 |
| 北原糸子　立命館大学客員研究員【関東大震災100年（3）】 | 6月7日 | 25 | 47 |
| 櫻井彩乃　GENCOURAGE代表【人口減少　80万人割れの衝撃（6）】 | 6月9日 | 20 | 35 |
| セルヒー・プロヒ　米ハーバード大学ウクライナ研究所所長 | 6月12日 | 30 | 50 |
| 稲田朋美　衆議院議員【多様性社会への課題（6）】 | 6月12日 | 40 | 39 |
| 役所広司　俳優、カンヌ国際映画祭最優秀男優賞受賞、田中泯　ダンサー | 6月13日 | 121 | 45 |
| 喜田村洋一　弁護士【ジャニーズ問題から考える（1）】 | 6月14日 | 43 | 77 |
| 松谷創一郎　ジャーナリスト【ジャニーズ問題から考える（2）】 | 6月15日 | 22 | 55 |
| 田中正之　国立西洋美術館館長　※映画「わたしたちの国立西洋美術館」試写会とあわせて開催 | 6月16日 | 84 | 19 |
| 内藤正典　同志社大学大学院教授【大統領選後のトルコ―内政と外交】 | 6月19日 | 20 | 37 |
| 大石裕　慶應義塾大学名誉教授【放送法文書をどう読むか（3）】 | 6月20日 | 15 | 46 |
| 河原理子　東京大学大学院特任教授、元朝日新聞記者【ジャニーズ問題から考える（3）】 | 6月22日 | 16 | 50 |
| 海野一幸　ヴァンフォーレ甲府元社長、木村正明　ファジアーノ岡山オーナー、眞壁潔　湘南ベルマーレ代表取締役会長【Jリーグ30年】 | 6月23日 | 17 | 24 |
| 伊藤高史　同志社大学教授【ジャニーズ問題から考える（4）】 | 6月30日 | 18 | 40 |
| ラファエル・マリアーノ・グロッシ　国際原子力機関（IAEA）事務局長【ALPS処理水について】 | 7月4日 | 119 | 258 |
| 森達也　映画「福田村事件」監督【関東大震災100年（4）】 | 7月5日 | 34 | 34 |
| ラファエル・マリアーノ・グロッシ　国際原子力機関（IAEA）事務局長【訪日の成果、IAEAの活動について】 | 7月7日 | 101 | 145 |
| 廣井悠　東京大学先端科学技術研究センター教授【関東大震災100年（5）】 | 7月12日 | 23 | 49 |
| 金森穣　Noism Company Niigata芸術総監督、演出振付家、舞踊家【著者と語る『闘う舞踊団』】 | 7月18日 | 29 | 32 |
| 中森広道　日本大学文理学部教授【関東大震災100年（6）】 | 7月19日 | 21 | 44 |
| 蔵元左近　日本国弁護士、米国ニューヨーク州弁護士【ジャニーズ問題から考える（5）】 | 7月21日 | 16 | 38 |
| 添谷芳秀　慶應義塾大学名誉教授、マイク望月　ジョージ・ワシントン大学准教授、渡邊啓貴　帝京大学教授ら【「アジアの未来と日本の戦略」日米の研究者による提言発表】 | 7月24日 | 27 | 45 |
| 喜田尚　朝日新聞社国際報道部記者、古川英治　ジャーナリスト＊リ、横島大輔　日本テレビ国際部担当副部長【ウクライナ（23）】 | 7月25日 | 26 | 63 |
| 大知久一　日本損害保険協会専務理事【関東大震災100年（7）】 | 7月26日 | 15 | 34 |
| 山口芳裕　杏林大学教授【関東大震災100年（8）】 | 7月28日 | 17 | 32 |
| 鈴木直道　北海道知事 | 7月31日 | 18 | 42 |
| 山崎幹根　北海道大学公共政策大学院教授【地方自治のいま（1）】 | 8月3日 | 20 | 41 |
| 国連「ビジネスと人権」作業部会：ダミロラ・オラウィ　議長、ピチャモン・イェオパントン　アジア太平洋地域メンバー | 8月4日 | 107 | 169 |
| 「ジャニーズ性加害問題当事者の会」平本淳也　代表、石丸志門　副代表ら7人 | 8月4日 | 148 | 68 |
| 鈴木英司　元日中青年交流協会理事長【中国反スパイ法とどう向き合うか】 | 8月8日 | 38 | 60 |
| 中満泉　国連事務次長（軍縮担当上級代表） | 8月10日 | 31 | 35 |
| ウラジスラバ・シモノバ　俳人、黛まどか　俳人【著者と語る『ウクライナ、地下壕から届いた俳句―The Wings of a Butterfly―』】 | 8月21日 | 34 | 27 |
| 全国統一教会被害対策弁護団：村越進　団長、紀藤正樹　副団長ら | 8月28日 | 39 | 37 |
| 目黒公郎　東京大学教授、同大学院情報学環総合防災情報研究センター長【関東大震災100年（9）】 | 8月29日 | 18 | 38 |
| 原一男　「水俣曼荼羅」監督、倉本ユキ海　水俣病被害者互助会会員（原告）ら【混沌の只中　水俣病を考える】 | 8月30日 | 30 | 31 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 船橋淳　映画監督、名執雅子　元法務省矯正局長　※映画「過去負う者」試写会とあわせて開催 | 9月4日 | 55 | 8 |
| 立山良司　防衛大学校名誉教授、池田明史　東洋英和女学院大学名誉教授【中東和平合意から30年】 | 9月6日 | 22 | 40 |
| ルスラン・ステファンチュク　ウクライナ最高会議議長 | 9月7日 | 33 | 34 |
| 「ジャニーズ性加害問題当事者の会」平本淳也　代表、石丸志門　副代表ら9人 | 9月7日 | 94 | 45 |
| 中尾政之　東京大学教授【生成ＡＩ（1）】 | 9月8日 | 17 | 81 |
| 三日月大造　滋賀県知事【地方自治のいま（2）】 | 9月11日 | 20 | 44 |
| 尾身茂　結核予防会理事長、岡部信彦　川崎市健康安全研究所所長、武藤香織　東京大学教授【新型コロナウイルス（83）】 | 9月14日 | 40 | 54 |
| エリザベス・ブラベック　世界イコモス国際学術委員会・文化的景観委員長、岡田保良　日本イコモス国内委員会委員長ら【神宮外苑再開発事業撤回に向けた緊急要請】 | 9月15日 | 38 | 42 |
| 木下洋一　元入管職員【著者と語る『入管ブラックボックス　漂流する入管行政・翻弄される外国人』】 | 9月15日 | 15 | 37 |
| 小山堅　日本エネルギー経済研究所専務理事、保坂修司　同理事・中東研究センター長【石油危機50年】 | 9月22日 | 33 | 46 |
| 山添博史　防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室長【ウクライナ（24）】 | 9月22日 | 24 | 42 |
| 野田秀樹　劇作家・演出家・役者 | 9月27日 | 58 | 30 |
| 新浪剛史　経済同友会代表幹事 | 9月29日 | 45 | 53 |
| 中村和子　男女共同参画アドバイザー、橋本真由美　兵庫県加西市議会議員【地方自治のいま（3）】 | 9月29日 | 13 | 25 |
| フィリップ・ラザリーニ　国連パレスチナ難民救済事業機関（ＵＮＲＷＡ）事務局長 | 10月2日 | 19 | 18 |
| 酒井邦嘉　東京大学大学院教授【生成ＡＩ（2）】 | 10月11日 | 25 | 60 |
| ギラッド・コーヘン　駐日イスラエル大使 | 10月12日 | 41 | 43 |
| 松丸喜一郎　日本ライフル射撃協会会長ら【eスポーツ（1）】 | 10月13日 | 12 | 16 |
| ワリード・シアム　駐日パレスチナ大使 | 10月16日 | 36 | 56 |
| 錦田愛子　慶應義塾大学教授、鈴木啓之　東京大学特任准教授【ハマス・イスラエル衝突（1）】 | 10月18日 | 36 | 65 |
| 岸本聡子　東京都杉並区長 | 10月18日 | 33 | 39 |
| リチャード・デイ　元英国軍兵士、マクドナルド・昭子　ビルマ作戦協会会長、ポール・コーデン　英国陸軍中佐、ジェームス・ボーグル　元英国陸軍大佐 | 10月20日 | 23 | 22 |
| フィリッポ・グランディ　国連難民高等弁務官 | 10月20日 | 29 | 36 |
| 内藤正典　同志社大学大学院教授【トルコ建国100年の自画像】 | 10月27日 | 9 | 26 |
| ガザ活動報告：川瀬佐知子　大阪赤十字病院看護部集中治療室看護係長、佐藤展章　日本赤十字社事業局国際部次長 | 11月17日 | 39 | 56 |
| 国分良成　前防衛大学校長、慶應義塾大学名誉教授【中国で何が起きているのか（1）】 | 11月21日 | 53 | 87 |
| ケント・カルダー　ジョンズ・ホプキンス大学教授【中国で何が起きているのか（2）】 | 11月22日 | 28 | 71 |
| 榊原英資　元財務官、インド経済研究所理事長【変動相場制50年～円の攻防】 | 11月22日 | 26 | 45 |
| 大野英男　東北大学総長【大学どこへ（1）】 | 11月28日 | 27 | 55 |
| エロワ・フィリョン　赤十字国際委員会（ＩＣＲＣ）アフガニスタン代表部首席代表 | 11月28日 | 16 | 15 |
| 東澤靖　明治学院大学教授【ハマス・イスラエル衝突（2）】 | 11月29日 | 34 | 78 |
| 保坂三四郎　エストニア国際防衛安全保障センター研究員【ウクライナ（25）】 | 12月1日 | 34 | 41 |
| 羽生善治　日本将棋連盟会長 | 12月1日 | 46 | 39 |
| 川上量生　ドワンゴ顧問【大学どこへ（2）】 | 12月8日 | 19 | 34 |
| 渡辺靖　慶應義塾大学教授【ハマス・イスラエル衝突（3）】 | 12月8日 | 24 | 39 |
| 江崎智絵　防衛大学校准教授【ハマス・イスラエル衝突（4）】 | 12月11日 | 19 | 51 |
| ハマスによる人質の家族代表団 | 12月12日 | 41 | 34 |
| 呉軍華　日本総合研究所上席理事【中国で何が起きているのか（3）】 | 12月13日 | 29 | 62 |
| 柴田聡　地域経済活性化支援機構（ＲＥＶＩＣ）常務取締役【中国で何が起きているのか（4）】 | 12月14日 | 20 | 54 |
| 原晋　青山学院大学陸上部監督【大学どこへ（3）】 | 12月14日 | 16 | 30 |
| 臼杵陽　日本女子大学教授【ハマス・イスラエル衝突（5）】 | 12月19日 | 23 | 38 |
| 神田眞人　財務省財務官 | 12月21日 | 39 | 62 |
| 白井さゆり　慶應義塾大学教授【２０２４年経済見通し（1）】 | 1月10日 | 39 | 59 |
| マティアス・コーマン　経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）事務総長 | 1月11日 | 28 | 51 |
| 髙橋裕子　津田塾大学学長【大学どこへ（4）】 | 1月16日 | 21 | 34 |
| 中空麻奈　ＢＮＰパリバ証券グローバルマーケット統括本部副会長【２０２４年経済見通し（2）】 | 1月17日 | 28 | 54 |
| 前田栄治　ちばぎん総合研究所社長【２０２４年経済見通し（3）】 | 1月17日 | 32 | 40 |
| 廣井悠　東京大学先端科学技術研究センター教授【能登半島地震（1）】 | 1月18日 | 34 | 58 |
| 倉田徹　立教大学教授【中国で何が起きているのか（5）】 | 1月18日 | 30 | 52 |
| 茶谷義隆　石川県七尾市長＊リ【能登半島地震（2）】 | 1月19日 | 7 | 60 |
| 酒井才介　みずほリサーチ&テクノロジーズ調査部主席エコノミスト【２０２４年経済見通し（4）】 | 1月19日 | 21 | 39 |
| 木村玲欧　兵庫県立大学教授【能登半島地震（3）】 | 1月19日 | 15 | 55 |
| 大庭良介　筑波大学准教授【大学どこへ（5）】 | 1月22日 | 8 | 26 |
| メリッサ・パーク　核兵器廃絶国際キャンペーン（ＩＣＡＮ）事務局長 | 1月22日 | 23 | 25 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山本尚範　名古屋大学医学部附属病院救急科診療科長【能登半島地震（4）】 | 1月25日 | 19 | 56 |
| 福田円　法政大学大学院教授【中国で何が起きているのか（6）】 | 1月26日 | 30 | 50 |
| 青木賢人　金沢大学准教授＊リ【能登半島地震（5）】 | 1月29日 | | 67 |
| 上脇博之　神戸学院大学教授＊リ【〈政治とカネ〉を問う（1）】 | 1月29日 | | 97 |
| 杉山直　名古屋大学総長【大学どこへ（6）】 | 1月30日 | 18 | 34 |
| 福本智之　大阪経済大学教授【２０２４年経済見通し（5）】 | 2月5日 | 26 | 53 |
| 佐々木毅　令和国民会議共同代表、谷口将紀　同主査総括【〈政治とカネ〉を問う（2）】 | 2月5日 | 21 | 55 |
| 牧原出　東京大学先端科学技術研究センター教授【〈政治とカネ〉を問う（3）】 | 2月6日 | 12 | 49 |
| アリザ・ビン・ノン　イスラエル外務省政務局長 | 2月6日 | 23 | 27 |
| 伊藤公平　慶應義塾長【大学どこへ（7）】 | 2月7日 | 25 | 37 |
| 永井丈道　航空安全推進連絡会議議長（国内航空会社機長）、石井直人　同副議長（航空管制官）ら【現役パイロットと管制官が考える羽田事故の課題】 | 2月8日 | 31 | 43 |
| 室崎益輝　神戸大学名誉教授【能登半島地震（6）】 | 2月8日 | 21 | 56 |
| 小笠原欣幸　東京外国語大学名誉教授【中国で何が起きているのか（7）】 | 2月9日 | 30 | 49 |
| 北川正恭　早稲田大学名誉教授【〈政治とカネ〉を問う（4）】 | 2月13日 | 21 | 33 |
| 鶴田浩久　国土交通省物流・自動車局長【働く人材クライシス（1）】 | 2月14日 | 20 | 40 |
| 宮武久佳　東京理科大学嘱託教授【大学どこへ（8）】 | 2月15日 | 9 | 25 |
| デニス・フランシス　第78回国連総会議長 | 2月15日 | 13 | 22 |
| 伝統芸能実演家ら10人、児玉竜一　早稲田大学演劇博物館館長【「国立劇場建て替え問題」会見】 | 2月16日 | 34 | 28 |
| 柳沢幸雄　北鎌倉女子学園学園長【大学どこへ（9）】 | 2月16日 | 11 | 22 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 清水一郎　日本バス協会会長【働く人材クライシス（2）】 | 2月16日 | 17 | 42 |
| パティマ・タンプチャヤクル　LPN共同創設者、「海の奴隷」救出に奔走する活動家 | 2月19日 | 26 | 22 |
| 山本佳世子　電気通信大学教授【能登半島地震（7）】 | 2月20日 | 10 | 38 |
| 徳地立人　元中信証券董事総経理【中国で何が起きているのか（8）】 | 2月21日 | 20 | 54 |
| 辻陽　近畿大学教授【地方自治のいま（4）】 | 2月26日 | 12 | 27 |
| 稲継裕昭　早稲田大学政治経済学術院教授【地方自治のいま（5）】 | 2月26日 | 6 | 20 |
| セルギー・コルスンスキー　駐日ウクライナ大使 | 2月27日 | 31 | 33 |
| 愛知治郎　元参議院議員【〈政治とカネ〉を問う（5）】 | 2月27日 | 13 | 27 |
| 森本章倫　早稲田大学教授【能登半島地震（8）】 | 2月28日 | 11 | 32 |
| 加茂具樹　慶應義塾大学教授【中国で何が起きているのか（9）】 | 3月6日 | 27 | 56 |
| 橋本学　東京電機大学大学院特別専任教授【能登半島地震（9）】 | 3月6日 | 14 | 46 |
| 佐藤孝弘　山形市長【地方自治のいま（6）】 | 3月7日 | 7 | 18 |
| 佐々江賢一郎　日本国際問題研究所理事長、元駐米大使【2024米大統領選（1）】 | 3月8日 | 42 | 83 |
| 加藤博和　名古屋大学大学院教授【働く人材クライシス（3）】 | 3月13日 | 15 | 26 |
| 結城康博　淑徳大学教授【働く人材クライシス（4）】 | 3月14日 | 15 | 37 |
| グレン・S・フクシマ　米先端政策研究所上席研究員【2024米大統領選（2）】 | 3月14日 | 37 | 53 |
| 松尾豊　東京大学大学院教授【生成AI（3）】 | 3月15日 | 30 | 73 |
| 竹増貞信　ローソン代表取締役社長【働く人材クライシス（5）】 | 3月15日 | 19 | 31 |
| 柯隆　東京財団政策研究所主席研究員【中国で何が起きているのか（10）】 | 3月18日 | 28 | 57 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 島崎謙治　国際医療福祉大学大学院教授【働く人材クライシス（6）】 | 3月18日 | 11 | 25 |
| 田村智子　日本共産党委員長 | 3月19日 | 45 | 41 |
| 高原明生　東京大学教授【中国で何が起きているのか（11）】 | 3月19日 | 28 | 53 |
| 石村和彦　産業技術総合研究所理事長兼最高執行責任者【大学どこへ（10）】 | 3月21日 | 14 | 35 |
| 小島美里　NPO法人暮らしネット・えん代表理事【働く人材クライシス（7）】 | 3月21日 | 8 | 27 |
| 久米晃　元自民党本部事務局長【〈政治とカネ〉を問う（6）】 | 3月22日 | 44 | 45 |
| 末宗徹郎　地域総合整備財団（ふるさと財団）理事長【地方自治のいま（7）】 | 3月25日 | 7 | 24 |
| 磯崎典世　学習院大学教授【〈政治とカネ〉を問う（7）】 | 3月26日 | 10 | 29 |
| 冨山和彦　経営共創基盤（IGPI）グループ会長【働く人材クライシス（8）】 | 3月27日 | 11 | 39 |
| 森井大一　日本医師会総合政策研究機構主席研究員【かかりつけ医を考える　英仏独の訪問調査から】 | 3月28日 | 7 | 25 |
| 神野正博　社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院理事長【働く人材クライシス（9）】 | 3月29日 | 7 | 31 |
| **一般行事**　4回 | | | |
| 総会記念講演会　岩井克人　東京大学名誉教授 | 5月30日 | 70 | 52 |
| 2023年度日本記者クラブ賞特別賞受賞記念講演会　山下晴海　RSK山陽放送報道制作局長、免田事件資料保存委員会：高峰武さん、甲斐壮一さん、牧口敏孝さん | 6月30日 | 18 | 34 |
| 2023年度日本記者クラブ賞受賞記念講演会　西野智彦　TBSテレビ常勤監査役 | 7月10日 | 26 | 30 |
| 新年互礼会員懇親会 | 1月23日 | 143 | |

◇

＊全ゲスト名を記載した行事リスト完全版をウェブサイトに掲載しています。